

平成30年度

函館市学習状況調査実施報告書

社会に開かれた教育課程の実現に向けて
～子どもの学びの「質」の向上を目指して～



函館市教育委員会
函館市学力向上プロジェクト推進委員会

刊行に寄せて

今年度より、総則、総合的な学習の時間、特別活動および、小学校における道徳科などが新学習指導要領よる実施となりました。今回の学習指導要領の改訂は、平成28年12月の中央教育審議会答申を踏まえ、「社会に開かれた教育課程」を重視することや、知識の理解の質をさらに高め、「確かな学力」を育成すること、道徳教育の充実や体験活動の重視、体育・健康に関する指導の充実による「豊かな心や健やかな体」を育成することが基本的なねらいとなっております。

生産年齢人口の減少や、グローバル化の進展、人工知能の飛躍的な進化など、社会情勢が大きく変化するなかで、学校教育には、子ども達が様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し、情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められております。

各学校においては、学習指導要領等が、学校、家庭、地域で幅広く共有・活用できる「学びの地図」としての役割を果たし、新しい時代に求められる資質・能力を子どもたちに育むためにも、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善や、カリキュラム・マネジメントの充実に向けた取組などが進められております。

本報告書では、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、推進事業の中心となって取り組んできた研究モデル校や、函館市南北海道教育センター研究員による検証改善サイクルの確立、小中連携による授業改善および校内研究の活性化に向けた手立てなどを特集として掲載しております。

各学校におきましては、本報告書を活用し、教育課程全体を通じて、資質・能力の育成が図られることや、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が推進されることなどを期待しております。

本報告書の刊行に当たって、校長会および教頭会をはじめ、研究モデル校ならびに函館市学力向上プロジェクト推進委員会の皆様には、多大なご協力をいただいたことに対しまして、心からお礼申し上げます。

平成31年3月

函館市教育委員会
教育長 辻

俊行

目次

刊行に寄せて

特集

社会に開かれた教育課程の実現に向けて ～子どもの学びの「質」の向上を目指して～

I 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善による、 子どもの学びの「質」の向上を目指して	1
1 何ができるようになるか～育成を目指す資質・能力～	3
2 何を学ぶか	5
3 どのように学ぶか	7
～「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善～		
4 カリキュラム・マネジメント	9
II 研究モデル校の実践		
・函館市立北日吉小学校（学力向上・小中連携）	11
・函館市立北中学校（学力向上・小中連携）	29
・函館市立青柳中学校（道徳教育）	38
III アドバイザーから	49
原稿執筆・編集者一覧		

社会に開かれた教育課程の実現に向けて ～子どもの学びの「質」の向上を目指して～

- I 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善による、子どもの学びの「質」の向上を目指して

「社会に開かれた教育課程」とは？

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「社会に開かれた教育課程」の実現

各学校における**「カリキュラム・マネジメント」**の実現

「社会に開かれた教育課程」とは、「誰」が「どのような取組を進めていくこと」かについて、平成29年度小・中学校新教育課程説明会（中央説明会）における文部科学省説明資料では、社会に開かれた教育課程について、3点で示している。

これからの教育課程の理念

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な教育内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを明確にしながら、社会との連携・協働によりその実現を図っていく。

＜社会に開かれた教育課程＞

- ① **社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。**
- ② **これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと。**
- ③ **教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。**

2点目「自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと」、この文言を詳しく読み解くと、

〇〇は、教育課程において、今後求められる資質・能力を明確にすることにより、子どもたちが、自分自身で、資質・能力を育んでいけるようにしなければならない

〇〇には、主体が入るのだが、主体は誰であろう。学校、教員、教育委員会、地域社会等、読み手によって主体が変わりそうではあるが、教育課程はあくまで学校でつくるものであり、主体は「学校」である。ただし、学校、教員、教育委員会、地域社会等それぞれの役割があるため、読み手によって、違うものが入ると考えて良いと考える。

学校全体で、教育内容や時間の適切な配分、 必要な人的・物的体制の確保、実施状況に基づく改善などを推進

子どもたちが、自分自身で、資質・能力を育ていけるようにするために、学校全体では、教育内容や時間の適切な配分、必要な人的・物的体制の確保、実施状況に基づく改善などを推進することが求められる。つまり、「カリキュラム・マネジメント」の確立である。

→ 「カリキュラム・マネジメント」の確立

「カリキュラム・マネジメント」については、キーワードとして3点

キーワード

- ◆ **教科横断的な学習の充実（カリキュラム・デザイン）**
- ◆ **PDCA（検証改善）サイクルの確立**
- ◆ **人的・物的資源等の効果的な組み合わせ**

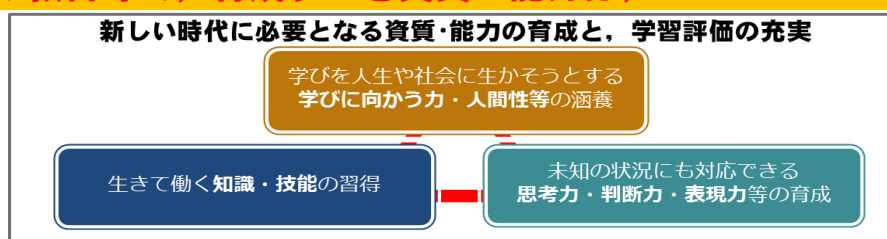
**授業を通じて、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続ける
資質・能力を身に付けさせることが重要**

→ 「主体的・対話的で深い学び」の実現

「狭い意味での授業の方法や技術の改善」や、「学習活動を子どもの自主性だけに委ねること」、「指導の型をなぞるだけで意味のある学びにつながらない授業」などは、「主体的・対話的で深い学び」の視点における授業改善とは言えない。

「見方・考え方」を軸としながら、幅広い授業改善の工夫が求められる。「見方・考え方」は、各教科の特質であり、習得・活用・探究という学びの過程の中で働くことを通じて、資質・能力がさらに伸ばされたり、新たな資質・能力が育まれたりし、それによって「見方・考え方」が更に豊かなものになる、という相互の関係にある。

すべての教科等で、育成すべき資質・能力は、



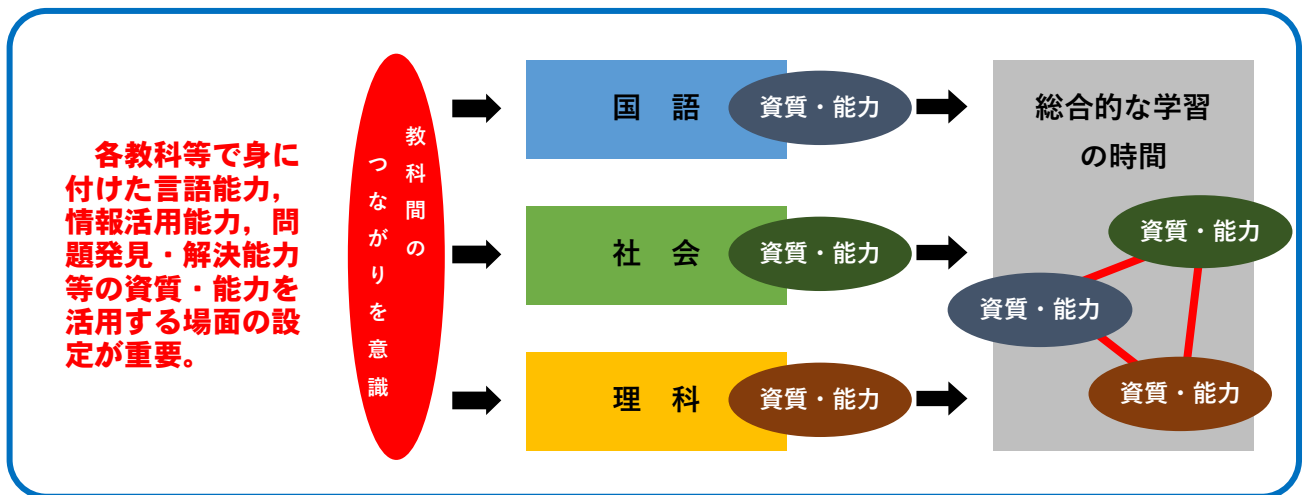
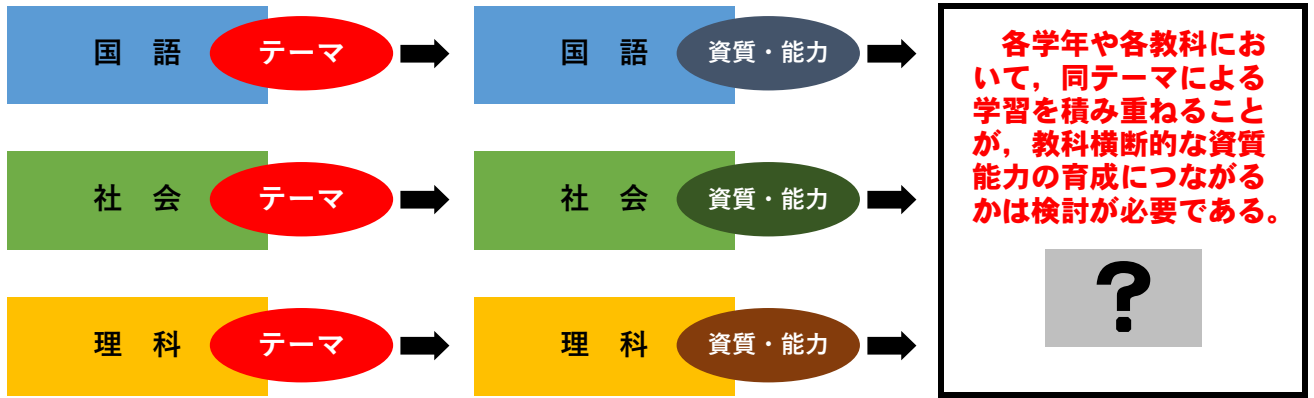
- 1 知識及び技能
- 2 思考力、判断力、表現力等
- 3 学びに向かう力、人間性等

育成すべき資質・能力は、三つの柱で整理された。「見方・考え方」を支えているのは、各教科等の学習において身に付けた資質・能力の三つの柱であり、資質・能力と「見方・考え方」は相互の関係にある。

社会に開かれた教育課程の実現に向けて、新学習指導要領に基づき、すべて教科等で資質・能力の育成を図るとともに、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を行い、「カリキュラム・マネジメント」を実現していくことが求められる。

1 何ができるようになるか～育成を目指す資質・能力～

学習指導要領においては、各教科の内容に系統性をもたせるとともに、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の育成として、教科の枠を超えた学びについて示されている。各学校で具体的な目標および内容を定めることとなる総合的な学習の時間において、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習が行われるようにすることなど、教科等間のつながりを意識して教育課程を編成することが重要である。

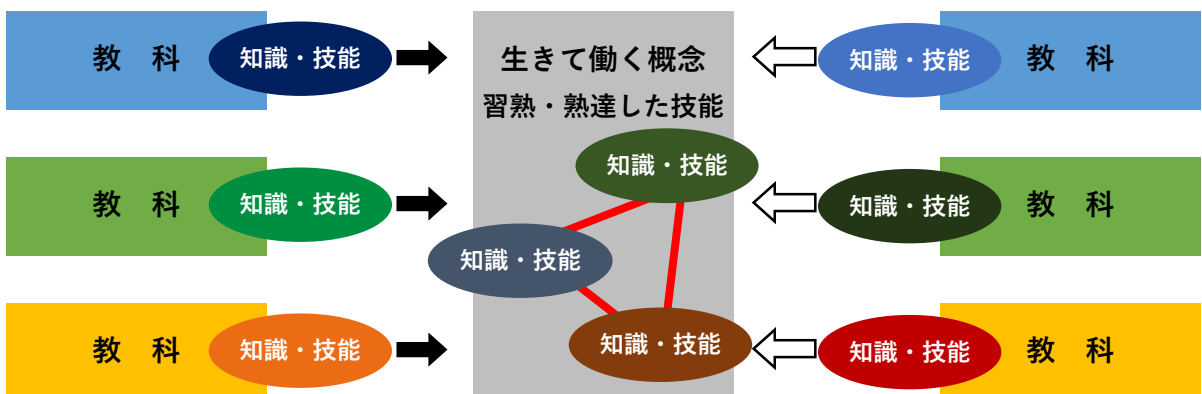


(1) 知識及び技能が習得されるようにすること

資質・能力の育成は、児童生徒が「何を理解しているか、何ができるか」に関わる知識及び技能の質や量に支えられており、知識や技能なしに、思考や判断、表現等を深めることや、社会や世界と自己との多様な関わり方を見いだしていくことは難しい。

知識については、教科の特質に応じた学習過程を通して、知識が個別の感じ方や考え方等に応じ、生きて働く概念として習得されることや、新たな学習過程を経験することを通して更新されていくことが重要となる。

技能についても同様に、一定の手順や段階を追っていく過程を通して個別の技能を身に付けながら、そうした新たな技能が既得の技能等と関連付けられ、他の学習や生活の場面でも活用できるように習熟・熟達した技能として習得されるようにしていくことが重要となる。

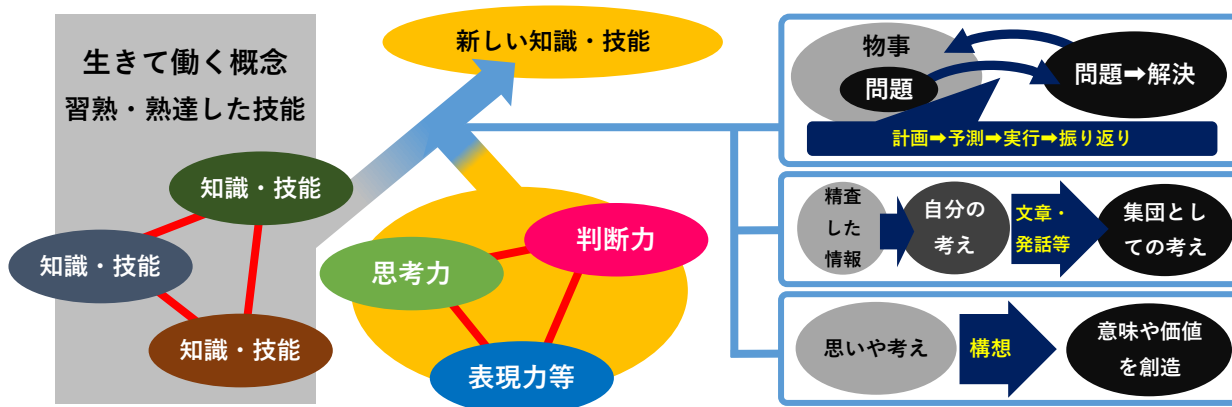


(2) 思考力、判断力、表現力等を育成すること

社会や生活の中で直面するような未知の状況の中でも、その状況と自分との関わりを見つめて具体的に何をなすべきかを整理したり、その過程で既得の知識や技能をどのように活用し、必要となる新しい知識や技能をどのように得ればよいのかを考えたりするなどの力である。

中央教育審議会答申では「知識及び技能を活用して課題を解決する」という過程については、大きく次の三つに分類している。

- ・物事の中から問題を見だし、その問題を定義し解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画を立て、結果を予測しながら実行し、振り返って次の問題発見・解決につなげていく過程
- ・精査した情報を基に自分の考えを形成し、文章や発話によって表現したり、目的や場面、状況等に応じて互いの考えを適切に伝え合い、多様な考えを理解したり、集団としての考えを形成したりしていく過程
- ・思いや考えを基に構想し、意味や価値を創造していく過程

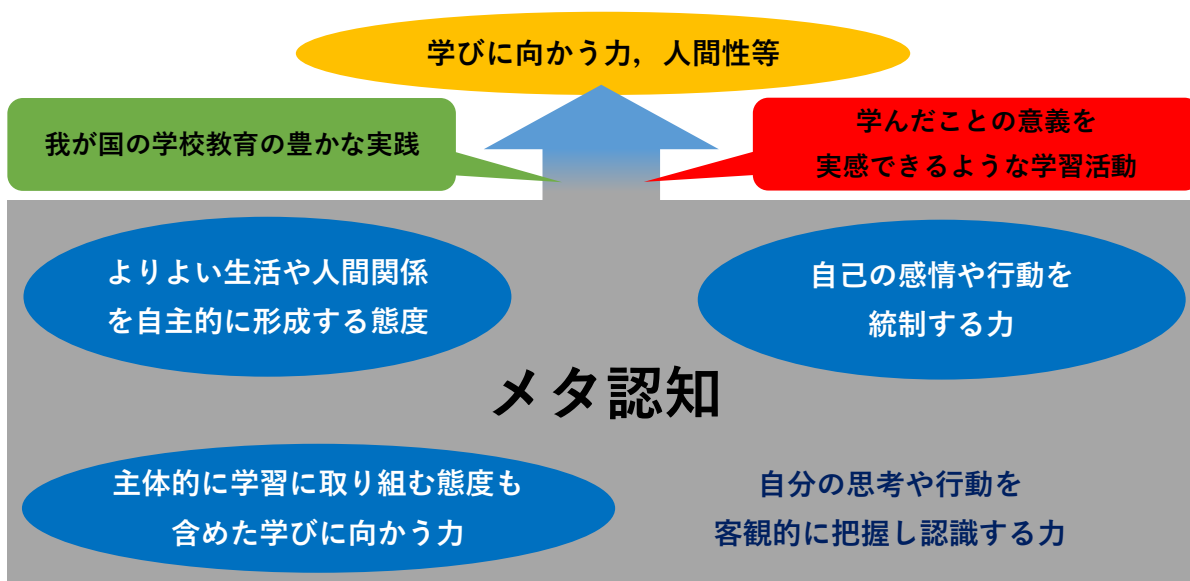


(3) 学びに向かう力、人間性等を涵養すること

「学びに向かう力、人間性等」は、他の二つの柱をどのような方向性で働かせていくかを決定付ける重要な要素である。他の二つの柱以上に、児童生徒や学校、地域の実態を踏まえて指導のねらいを設定していくことが重要となる。

主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する力、よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度等、自分の思考や行動を客観的に把握し認識する、いわゆる「メタ認知」に関わる力を含むものが必要となる。

こうした情意や態度等を育てていくためには、我が国の学校教育の豊かな実践を生かし、体験活動を含めて、社会や世界との関わりの中で、学んだことの意義を実感できるような学習活動を充実させていくことが重要となる。



2 何を学ぶか

「目標を達成するよう教育を行うものとする」の規定は、教育基本法第2条（教育の目標）、学校教育法第21条（義務教育の目標）および第30条・46条（小・中学校教育の目標）が、いずれも「目標を達成するよう行われるものとする」と規定していることを踏まえたものであり、児童生徒が目標を達成することを義務付けるものではないが、教育を行う者は、これらに掲げる目標を達成するように教育を行う必要がある。教育を行うための中核となる教育課程を編成するに当たって、次の2点が編成の原則となる。

- ① 教育基本法および学校教育法その他の法令ならびに学習指導要領の示すところに従うこと
- ② 児童生徒の人間として調和のとれた育成を目指し、児童生徒の心身の発達の段階や特性および学校や地域の実態を十分考慮すること

総則改正の要点

今回の改訂の趣旨が教育課程の編成や実施に生かされるようにする観点から、（1）資質・能力の育成を目指す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進める、（2）カリキュラム・マネジメントの充実、（3）児童生徒の発達の支援、家庭や地域との連携・協働を重視するなどの改善が行われた。

（1）資質・能力の育成を目指す「主体的・対話的で深い学び」

- ・学校教育を通して育成を目指す資質・能力が「三本の柱」に再整理され、それらがバランスよく育まれるよう改善された。
- ・言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力や、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力が教科等横断的な視点に基づき育成されるよう改善された。
- ・資質・能力の育成を目指し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が推進されるよう改善された。
- ・言語活動や体験活動、ICT等を活用した学習活動等を充実するよう改善された。（小学校：情報手段の基本的な操作の習得やプログラミング教育が新たに位置付けられた。）



（2）カリキュラム・マネジメントの充実

- ・カリキュラム・マネジメントの実践により、校内研修の充実等が図られるよう、章立てが改善された。
- ・児童生徒の実態等を踏まえて教育の内容や時間が配分され、授業改善や、必要な人的・物的資源の確保などの創意工夫を行い、組織的・計画的な教育の質的向上を図るカリキュラム・マネジメントが推進されるよう改善された。

（3）児童生徒の発達の支援、家庭や地域との連携・協働

- ・児童生徒一人ひとりの発達を支える視点から、学級経営や生徒指導、キャリア教育の充実について示された。
- ・障がいのある児童生徒や海外から帰国した児童生徒、日本語の習得に困難のある児童生徒、不登校の児童生徒、（中学校：学齢を超過した者）など、教育上特別な配慮を必要とする児童生徒への指導と教育課程の関係について示された。
- ・中学校では、教育課程外の学校教育活動である部活動について、教育課程との関連が図られるようにするとともに、持続可能な運営体制が整えられるようにすることが示された。
- ・教育課程の実施に当たり、家庭や地域と連携・協働していくことが示された。



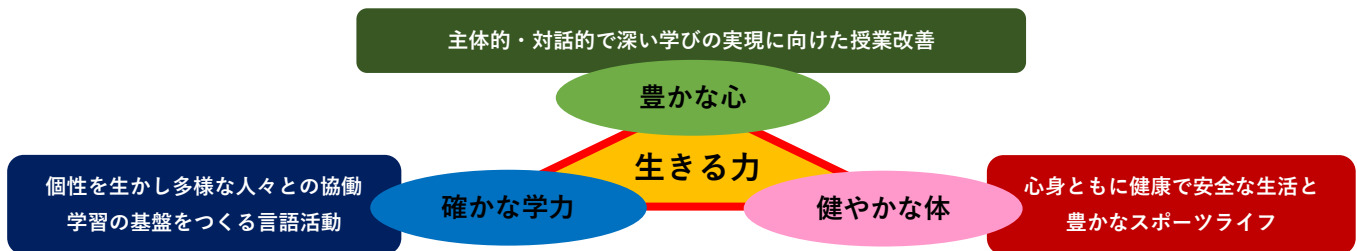
道徳の特別の教科化に係る一部改正

道徳教育も道徳科も、その目標は、最終的には「道徳性」を養うことであることを前提としつつ、各々の役割と関連性を明確にした分かりやすい規定となった。「特別の教科である道徳」を「道徳科」と言い換える旨が示されるとともに、道徳教育の目標について、「自己（人間として）の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと」と簡潔に示された。また、道徳教育を進めるに当たっての配慮事項として、道徳教育の目標を達成するための諸条件を示しながら「主体性のある日本人の育成に資することとなるよう特に留意しなければならない」こととされた。



生きる力を育む各学校の特色ある教育活動の展開

学校教育が長年その育成を目指してきた「生きる力」の意義を改めて捉え直し、しっかりと発揮できるようにしていくことが重要となる。このため、各学校の創意工夫を生かした特色ある教育活動を通して、児童生徒に確かな学力、豊かな心、健やかな体を育むことを目指すことが示されている。確かな学力、豊かな心、健やかな体は学校教育を通じて、相互に関連し合いながら一体的に実現されるものであることに留意する必要がある。



(1) 確かな学力

基礎的・基本的な知識および技能の習得と、思考力、判断力、表現力等の育成、主体的に学習に取り組む態度の涵養を目指す教育の充実に努めることが示されている。加えて、変化が激しく予測困難な時代の中でも通用する確かな学力を身に付けるためには、自分のよさや可能性を認識して個性を生かしつつ、多様な他者を価値のある存在として尊重し、協働して様々な課題を解決していくことが重要であることから、学校教育法第30条第2項に規定された事項に加えて、「個性を生かし多様な人々との協働を促す」ことが示されている。

また、確かな学力の育成に当たって特に重要となる学習活動として、児童生徒の発達の段階を考慮して、まず「児童生徒の言語活動など、学習の基盤をつくる活動を充実する」ことが示されている。また、「家庭との連携を図りながら、児童生徒の学習習慣が確立するよう配慮すること」の重要性が示されている。

(2) 豊かな心

道徳教育や体験活動、多様な表現や鑑賞の活動等を通して、豊かな心や創造性の涵養を目指した教育の充実に努めることが示されている。創造性とは、感性を豊かに働かせながら、思いや考えを基に構想し、新しい意味や価値を創造していく資質・能力であり、豊かな心の涵養と密接に関わるものである。

豊かな心や創造性の涵養は、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して実現が図られるものである。多様な表現や鑑賞の活動等については、音楽や図画工作（美術）における表現および鑑賞の活動や、体育（保健体育）における表現運動、特別活動における文化的行事（文化系のクラブ）等の充実に図るほか、各教科等における言語活動の充実に図ることや、教育課程外の学校教育活動などと相互に関連させ、学校教育活動全体として効果的に取り組むことも重要となる。

(3) 健やかな体

健やかな体の育成は、心身の調和的な発達の中で図られ、心身の健康と安全や、スポーツを通じた生涯にわたる幸福で豊かな生活の実現と密接に関わるものであることから、体育・健康に関する指導のねらいとして、心身ともに健康で安全な生活と、豊かなスポーツライフの実現が一体的に示されている。

また、積極的に運動する児童生徒とそうでない児童生徒の二極化傾向が指摘されていることなどから、生涯にわたって運動やスポーツを豊かに実践していくとともに、現在および将来の体力の向上を図る実践力の育成を目指し、児童生徒が自ら進んで運動に親しむ資質・能力を身に付け、心身を鍛えることができるようにすることが大切である。

さらに、健康に関する指導については、児童生徒が身近な生活における健康に関する知識を身に付けることや、必要な情報を自ら収集し、適切な意思決定や行動選択を行い、積極的に健康な生活を実践することのできる資質・能力を育成することが大切である。

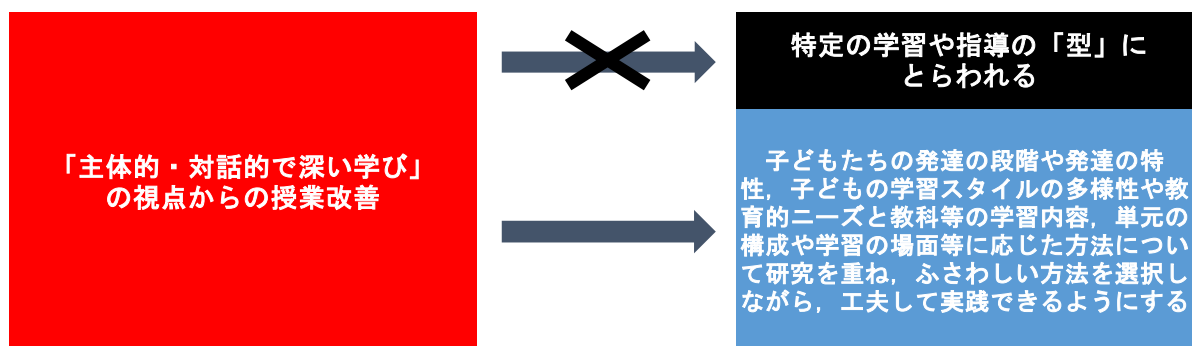
3 どのように学ぶか ～「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善～

資質・能力を基にして、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（見方・考え方）が鍛えられていくことに留意し、子どもが各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ることが求められる。

高度な社会課題の解決だけを目指したり、そのための討論や対話といった学習活動を行ったりすることのみが「主体的・対話的で深い学び」ではない点に留意が必要

（教育課程企画特別部会 論点整理 一部変更）

指導法を一定の型にはめ、教育の質の改善のための取組が、狭い意味での授業の方法や技術の改善に終始するのではないかと懸念などがある。我が国の教育界は極めて真摯に教育技術の改善を模索する教員の意欲や姿勢に支えられていることは確かであるものの、これらの工夫や改善が、ともすると本来の目的を見失い、特定の学習や指導の「型」にとらわれる事態を招きかねないのではないかと危惧されている。



- (1) 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているか

教える場面と、子どもたちに思考・判断・表現させる場面を効果的に設計し、関連させながら指導していくこと

- (2) 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているか

多様な表現を通じて、教師と子どもや、子ども同士が対話し、それによって思考を広げ深めていくこと

- (3) 子どもたちが見通しをもって粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているか

実社会や実生活に関わる主題に関する学習を積極的に取り入れていくことや、前回の改訂で重視された体験活動の充実を図り、その成果を振り返って次の学びにつなげていくこと

指導方法を工夫して必要な知識・技能を教授しながら、それに加えて、子どもたちの思考を深め発言を促したり、気付いていない視点を提示したりするなど、学びに必要な指導の在り方を追究し、必要な学習環境を積極的に設定していくことが求められる。

(4) 函館市学力向上プロジェクト推進委員会報告
～「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善～

① 学力向上1WG（函館市立北日吉小学校 ワーキング・グループ）

- 成
果
- ① 問題解決的な学習の過程（め・よ・た・ま）を確実に実施した。
 - ② 子ども同士の話合いの時間の確保を行った。
 - ③ 習熟度に応じて、交流の仕方を工夫し、見通しをもたせた学習活動が展開できた。
 - ④ 他教科で身に付けた力を活用する機会を設定した。
 - ⑤ 根拠に基づいた発表を行わせた。
 - ⑥ 小中連携については、学校間で授業参観を実施し、全教職員が相互に参観を行った。
 - ⑦ 小中で共通した学習系統図を作成し、9年間を見通した指導に努めた。
- 改善点
- 子ども同士の話合いでは、目的や視点を明確にすることが求められる。



② 学力向上2WG（函館市立北中学校 ワーキング・グループ）

- 成
果
- ・子ども同士の主体的な学びをねらいとした反転学習を実施した。
 - 反転学習を取り入れたグループワークを取り入れたことにより、
 - 自ら調べ、伝えることを楽しむ姿が見られ、主体性の高まりを感じた。
 - 子ども自身に予習を行う必然性を育成することにつながった。
 - 教え、教えられる関わりの中から、対話が生まれ、学び合いが深まった。
 - 継続して反転学習を行うことで、学び合いの土台を作り、生徒同士による対話中心のグループワークができるようになった。
- 教師の支援
- ・小学校からの導入に向け、小中連携が大切である。
 - ・子どもの理解の程度に応じた対応が必要である。
 - ・子どもに理解させたい内容の十分な把握が必要である。
 - ・反転学習を手段として、理解を深めることを目的とする。



③ 道徳教育WG（函館市立青柳中学校 ワーキング・グループ）

- 内容項目の深い理解を通して、学習内容のポイントを絞り、ゴールを明確にして授業を構築する必要がある。

ゴールイメージをしっかりともつ

- 子どもたちの道徳的価値をゆさぶる工夫が必要である。

テーマ発問型の授業展開，ゆさぶる場面の設定，問い返しの工夫

- 対話のあり方については、個人，グループ，フリートークなど様々な形態を学習内容に合わせて活用する。

子どもたちに自信をもたせ，深い思考を促す

- 一人一授業の改善点などを研究部がまとめ、発信し、次の授業につなげる。

**校内研究の工夫，PDCAサイクルの確立
道徳科の授業のおもしろさにつながっていく**



4 カリキュラム・マネジメント

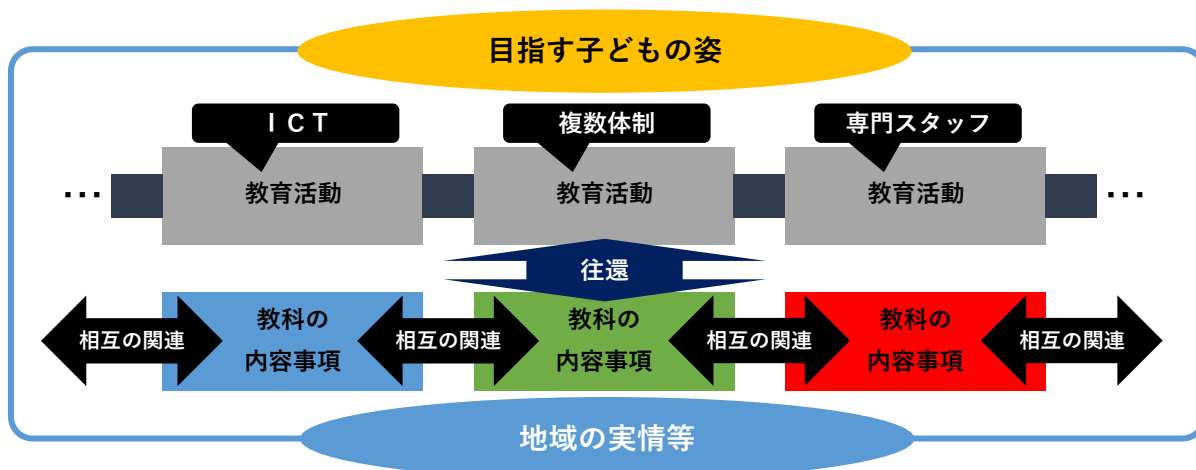
「カリキュラム・マネジメント」についての三つの側面

- ① 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと
- ② 教育内容の質の向上に向けて、子どもたちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること
- ③ 教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること

(1) 教科横断的な学習の充実（カリキュラム・デザイン）

各教科等における学習の充実はもとより、教科等間のつながりを捉えた学習を進める観点から、教科等間の内容事項について、相互の関連付けや横断を図る手立てや体制を整える必要がある。各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、必要な教育内容を組織的に配列し、更に必要な資源を投入する営みが重要となる。個々の教育活動を教育課程に位置付け、教育活動相互の関係を捉え、教育課程全体と各教科等の内容を往還させる営みが、「カリキュラム・マネジメント」を支えることになる。

学習指導要領等を豊かに読み取りながら、各学校の子どもたちの姿や地域の実情等と指導内容を照らし合わせ、効果的な年間指導計画等の在り方や、授業時間や週時程の在り方等について、校内研修等を通じて研究を重ねていくことも考えられる。



(2) PDCA（検証改善）サイクルの確立

「社会に開かれた教育課程」の観点からは、学校内だけではなく、保護者や地域の人々等を巻き込んだ「カリキュラム・マネジメント」を確立していくことも重要であることから、函館市学力向上プロジェクト推進委員会からの提案として、各WG毎に研究モデル校におけるPDCA（検証改善）サイクルの確立を図った。

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学力向上WG1 (国語科)									
学力向上WG2 (算数)									
学力向上WG3 (英語)									
学力向上WG4 (総合)									

検証改善前シート

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学力向上WG1 (国語科)									
学力向上WG2 (算数)									
学力向上WG3 (英語)									
学力向上WG4 (総合)									

6月検証改善

Ⅱ 研究モデル校の実践

第4学年 算数科学習指導案（少人数指導 1学級2集団 習熟度別）

日時 平成30年11月26日（月）第5教時

児童 函館市立北日吉小学校 第4学年1組

男子14名 女子11名 計25名

指導者 教諭 佐々木 浩敦（ササキコース）4年1組教室

教諭 尾刀 久美子（オガタコース）算数ルーム

1 単元名 「1.1 変わり方調べ」（東京書籍 4年下）

2 単元の構成

（1）子どもの実態調査（学力・学習状況調査，レディネステストの結果より）

①本校子どもの実態（学力・学習状況調査の結果より）

質問紙集計結果から、本校児童は学習に対する意欲が高く、どの問題に対しても最後まであきらめずに粘り強く取り組めることが分かった。この意欲を生かした活気ある授業を、全学年で展開できるよう、学校ぐるみで取組を進めている。また、問題を解くスピードに難がある傾向が見られた。計算の反復練習など基礎基本の徹底も必要である。

算数Aと算数Bの調査結果からは、数量関係の領域、特に割合の学習における課題が明らかになった。数量関係の領域における課題は本校だけでなく、中学校の課題としてもとらえられているところである。そこで小中連携した数量関係の領域の指導の更なる充実を図ることとし、本校の更なる学力向上に向けた取組を進めている。

②学級の子どもの実態（レディネステストの結果も含めて）

<A 数量関係についての既習事項の定着の状況はどうなっているか>

「乗法の九九のきまり（乗数と積の関係）」については、ほぼ理解できている。しかし、図に表すと題意が捉えられていない状況も見られ、個別に指導していく必要がある。また、九九の定着が十分でない児童が数名いるので、継続して指導中である。

「言葉の式から問題場面を選択する」設問については、十分理解していると考えられる。

<B 本単元で学習する数量関係についての思考の傾向や考えはどうなっているか>

未習内容である「□と○を使った式を見て、対応する数を見つける」設問については、多くの児童が表を使いながら□と○の関係について考えることができた。その反面、題意がつかめず感覚的に自分なりの規則性を見だし、数字をうめてしまっている児童もいた。本単元においては、表を手がかりに根拠をもちながら考えさせる活動を通し、全員がしっかりと理解していくことを目指したい。

また、「未知の数を□として、数量の関係を式表示できるか」の設問については、□の値を求める問題と勘違いしてしまったり、かけ算ではなくわり算で立式してしまったりした子どもが数名いた。題意がうまくとらえられていなかった様子が見られたので本単元の授業の中でも丁寧な支援が必要であると考える。

<C 日常生活における“伴って変わる量”についてどのようなイメージをもっているか>

「日常の生活の中にある2量の変化の関係を文章で表す」設問については、多くの児童が生活経験から考えて記述することができたが、関数の考え方でとらえている子どもが少ないことが分かった。

以上の結果から、次のような点を考慮して単元構成を考えることとした。

- ・未知数を□としてとらえることができるようにする。
- ・表を手がかりに考える活動を設定する。
- ・学習の最後に適用問題に取り組む時間を設定し、基礎基本の徹底を図る。
- ・意欲的に学習ができるよう問題解決型の学習の充実を図る。また、課題提示の仕方を工夫する。
- ・習熟度別指導体制を生かし、全員が分かる授業を目指す。

(2) 実態調査の結果を生かした単元の構成

①単元について

既習事項	子どもの実態	単元の特徴
<p>○関数の考え方については、これまでも数の合成、分解や加減計算、乗法計算の場を通して具体的なことがらにふれて2つの数量を関係づける初歩的な学習をしている。</p> <p>○第3学年では、問題場面を言葉の式にまとめ、それを用いることで、数量を関係づけてとらえる力を伸ばしている。(□を用いた立式)</p> <p>○実態調査から、□を使った立式や、文章を読んで題意をとらえること、2量の変化の関係を関数の考え方でとらえることが苦手な児童が多いことが分かった。</p>	<p>○本学級の子どもは、算数に対して興味・関心が高い児童が多い。授業ではペア学習やグループ学習などを取り入れ、自分の考えを説明する算数的活動に取り組むこと、児童が積極的に発言したり、考えを深め合ったりする姿が見られるようになってきている。</p> <p>○ノートに自分の考えを図や言葉、式などを使ってかく力については、経験を重ねることで徐々にではあるが育ちつつある。</p> <p>○学級全体の学び合いの場で、図や式、絵や言葉などを使って、どのように説明すればよいのか分からないと感じている児童が多い。</p> <p>○問題を提示するだけでは、題意をとらえることが困難な児童がいる。</p>	<p>○本単元では、伴って変わる2つの数量があることに着目し、それらを表や式に表して関係を明らかにする能力を育成することがねらいである。</p> <p>○関数の考え方についての理解を深めるために、次のような指導を行う。</p> <p>①ある場面での数量や図形についての事柄が、他のどんな事柄と関係するかに着目すること。</p> <p>②2つの事柄の変化や対応の特徴を調べていくこと。</p> <p>③見いだした変化や対応の規則性を様々な問題の解決に活用し、思考過程や結果を表現したり、説明したりすること。</p>

学習指導要領の目標・内容 D 数量関係

<p>目 標 算数的活動を通して、数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え、表現する能力を育てるとともに、算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付き、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる。</p>
<p>内 容 (1) 伴って変わる二つの数量の関係を表したり調べたりすることができるようにする。</p> <p>ア 変化の様子を折れ線グラフを用いて表したり、変化の特徴を読み取ったりすること。</p> <p>(2) 数量の関係を表す式について理解し、式を用いることができるようにする。</p> <p>ア 四則の混合した式や()を用いた式について理解し、正しく計算すること。</p> <p>イ 公式についての考え方を理解し、公式を用いること。</p> <p>ウ 数量を□、○などを用いて表し、その関係を式に表したり、□、○などを数当てはめて調べたりすること。</p> <p>(3) 四則に関して成り立つ性質についての理解を深める。</p> <p>ア 交換法則、結合法則、分配法則についてまとめること。</p> <p>(4) 目的に応じて資料を集めて分類整理し表やグラフを用いて分かりやすく表したり、特徴を調べたりすることができるようにする。</p> <p>ア 資料を二つの観点から分類整理して特徴を調べること。</p> <p>イ 折れ線グラフの読み方やかき方について知ること。</p>

単元の目標

<p>【関心・意欲・態度】 伴って変わる2つの数量関係について、関係を表で調べることのよさや、関係を□や○などを用いた式に簡潔に表せることのよさに気付き、生活や学習に用いようとする。</p>
<p>【数学的な考え方】 伴って変わる2つの数量の関係を、表を用いて手際よく調べたり、□や○などを変数を表す記号として用いて式に表し、関係を簡潔にとらえたりすることができる。</p>
<p>【表現・処理】 伴って変わる2つの数量の関係を、表に表して変化の特徴を読み取ったり、□や○などを用いた式に表したりすることができる。</p>
<p>【知識・理解】 伴って変わる2つの数量関係を、表を用いて調べる方法や、□や○などを用いた式の表し方について理解する。</p>

学習活動の工夫

<p>○少人数指導によるきめ細やかな指導を行い、全員が分かる授業を展開する。</p>
<p>○小交流や全体交流の中で、友達の考えを聞き、互いの考えの共通点や相違点に着目し、焦点化し、補完し合う場を設定する。</p>

環境構成の工夫

<p>○既習事項・学習の経過を振り返ることができるように教室掲示を工夫する。</p>
<p>○具体的操作ができるような教材・教具を準備する。</p>
<p>○見通しをもって考える時間を十分確保する。</p>

評価の工夫

<p>○算数的活動の中で、観察・ノート・発言などから個々の学習状況を把握する。</p>
<p>○自己評価、相互評価を通して、自他のよさを認め合う場を設定する。</p>

主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善を目指し、次の2点について重点を置き、小学校・中学校で連携しながら研究を進めている。

視点1 資質・能力を育むための指導の工夫

① 効果的な少人数指導の実施

4・5年生の算数科の学習において、4月より少人数指導を行っている。1学級を2分割し習熟度別の指導を行うことで支援がより充実し、個に応じた資質・能力の育成を図ることができると考えている。

また、習熟度別クラスの編成については、レディネステストや児童の実態に基づいて行っている。基礎クラスでは、個別支援を多めに設定することで、全員が「分かる」授業を目指している。発展コースでは、学び合いの活動を充実させている。児童が主体となり、自己との対話・他者との対話をしながら深い学びの獲得を目指していく。

本校では、他の学年においてもTTでの指導を行っている。これにより全校体制での指導が可能となり、学力向上に向けての学校ぐるみの取組を進めている。

② 問題解決型の学習の徹底

主体的な学びの実現のためには、問題解決型学習のより一層の充実が必要である。本校では、「めあて→よそう→たしかめ→まとめ」の流れに沿った授業スタイルを全校で統一して行っている。今年度は特に、課題を自分ごととしてとらえる必要があると考え、児童の思考の流れを考量し、課題提示の仕方を工夫することとした。(中学校では、「生徒が入り込む課題の設定」、「1時間の授業で解決すべき課題の提示」が研究の一つの重点となっている。)

③ 対話する場面の設定

対話的な学びの実現のために「自己との対話」「他者との対話」の場面の設定を行う。「自己との対話」では、自力解決場面の時間の確保、解決に向けての支援の在り方について工夫を行う。「他者との対話」では、交流場面の効果的な設定について工夫を行うことで、自己の考えの変容に気付かせ、より深い学びの獲得を目指している。また、自力解決が難しい児童については、操作活動をしたりヒントカードを活用したりするなどの手立てを講じることとした。(中学校では、「学びに向かう学習集団の形成」に重点を置いている。)

視点2 小・中学校接続を意識した指導

① 学習の系統図の共有と「15歳の姿」の設定、資質・能力の明確化

北日吉小学校と北中学校では、小・中学校接続を意識し、学力向上に関して連携した指導を目指している。今回の取組では、算数科の「数量関係」、その中でも比例と反比例に関わる領域について、学習の系統図を小・中学校で協力して作成し全職員に周知を行った。また、9年間の指導の最終的な児童の姿を「15歳の姿」として明記することで、目標に向けて統一した指導が進められるものと考えている。

② 学力向上年間計画、学習常規、家庭学習のきまりなどの共有と連携した指導

学校がチームとして学力向上に取り組み、更に9年間を見越した指導を行うことができるよう学力向上年間計画を小・中学校で協働して作成し、交流を行う。また、学習常規は3年前から、家庭学習のきまりは2年前から中学校と接続を図っている。

③ 中学校の研究授業の反省を生かした指導

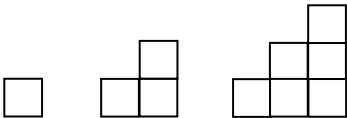
11月8日(木)に行われた北中学校研究授業の反省で、「表を作成する力」が弱いという実態が明らかになった。本単元では、2時間に渡り、表を作成する活動を行う予定である。児童の実態に合わせながら確実に2つの数量を表にまとめる力を付けさせていく。

また、教科書の解答例を見ても理解が困難な生徒がいることが分かった。小学校段階において、他者の考えを整理して、自分の言葉で説明する活動を設ける必要がある。

3 単元の指導計画 (5時間)

時	学習課題	主な評価規準と評価方法	学習内容																					
			オガタ コース	ササキ コース																				
1	不思議な時計の表㊦と裏㊧の両面にかかっている針がさす時刻にはどんな関係があるか調べよう。	【関心・意欲・態度】 伴って変わる 2 つの数量の関係に関心を持ち、関係を表を用いて調べることよさに気付いている。 (発言・カード・観察)	○時計盤とカードを使って㊦と㊧の時刻を調べる。 ・1のうらは12 ・2のうらは11 ・3のうらは10 だよ ・1時間ごと進んでいるのではなさそうだね。 ・何か決まりがありそうだね。 ○カードを並べながら表に表す。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>㊦の時計盤の時刻 (時)</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>㊧の時計盤の時刻 (時)</td> <td>12</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> ☆見通しがもてない子どものために、表をかくためのヒントカードを用意する。 ※途中まで数値が記入された表をヒントカードとして使用する。 ○二つの時計盤の時刻の間にはどんな関係があるか調べる。 ○自力解決 ○全体交流 ・㊦の時刻の数が増えると、㊧の時刻の数は減っているよ。 ・㊦の時刻の数が1ずつ増えると、㊧の時刻の数は1ずつ減っている。	㊦の時計盤の時刻 (時)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	㊧の時計盤の時刻 (時)	12									○時計盤とカードを使って㊦と㊧の時刻を調べる。 ○表に表す。 ○二つの時計盤の時刻の間にはどんな関係があるか調べる。 ○自力解決 ・並べたカードを横に見てみよう。 ・並べたカードを縦に見てみるとどうだろう。 ○小交流 ○全体交流
㊦の時計盤の時刻 (時)	1	2	3	4	5	6	7	8	9															
㊧の時計盤の時刻 (時)	12																							
2	見つけた決まりを□、○を使って式に表そう。	【数学的な考え方】 変数を表す記号として□や○をとらえて式に表している。 (ノート・観察)	○㊦の時刻を□時、㊧の時刻を○時とする。 ○見通しをもたせる。 ☆見通しがもてない子どものために、式をかくためのヒントカードを設ける。 ○見つけた決まりを式や言葉でまとめる。(自力解決)	○㊦の時刻を□時、㊧の時刻を○時とする。 ○見通しをもたせる。 ・表を縦に見ると式がたてられそうだよ。 ○見つけた決まりを式や言葉でまとめる。(自力解決) ○小交流 ○全体交流																				

			<p>○全体交流</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">アとイの時刻の数は、一方が変わるともう一方も変わって、和が13になる。 式に表すと、$\square + \bigcirc = 13$</p> <p>○見つけた決まりを活用する。 アの時刻が10や11の時のイの時刻を確かめる。</p>	<p>○見つけた決まりを活用する。 アの時刻が10や11の時のイの時刻を確かめる。</p>												
<p>3</p>	<p>三角形の数と周りの辺の長さの変わり方のきまりを見つけよう。</p>	<p>【知識・理解】 伴って変わる2つの数量の関係を表や式に表す仕方を理解している。 (ノート・発言)</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">三角形の数と周りの辺の長さの変わり方のきまりを見つけよう。</p> <p>○三角形の数と周りの辺の長さの変わり方も表を使って表せることに気づく。 三角形のカードを操作しながら表を完成させる。</p> <table border="1" data-bbox="1099 651 1559 815"> <tr> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">正三角形 (こ)</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">周りの長さ (cm)</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">5</td> <td style="text-align: center;">6</td> </tr> </table> <p>○変わり方のきまりを見つける。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>・表をたてに見た時、周りの長さはいつも2大きいね。 ・表を横に見た時、1ずつ増えてるよ。</p> </div> <p>○自力解決 ○全体交流</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>☆式をかくためのヒントコーナーを設ける。</p> </div> <p>○三角形の数と周りの辺の長さの変わり方も式を使って表せることに気づく。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">三角形の数 + 2 = 周りの長さになった。つまり、$\square + 2 = \bigcirc$になった。</p> <p>○P49の⑤⑥の問題を全体で確認しながら解く。</p>	□	正三角形 (こ)	1	2	3	4	○	周りの長さ (cm)	3	4	5	6	<p>○三角形の数と周りの辺の長さの変わり方も表を使って表せることに気づく。 教科書の図を見ながら表を完成させる。</p> <p>○変わり方のきまりを見つける。</p> <p>○自力解決 ○小交流 ○全体交流</p> <p>○三角形の数と周りの辺の長さの変わり方も式を使って表せることに気づく。</p> <p>○P49の⑤⑥の問題を解く。</p>
□	正三角形 (こ)	1	2	3	4											
○	周りの長さ (cm)	3	4	5	6											

<p>4 本 時</p>	<p>階段の数と周りの長さのかわり方のきまりを見つけよう。</p>	<p>【数学的な考え方】 伴って変わる 2 つの数量の関係について、変わり方の規則性を見いだしている。(ノート・観察)</p> <p>【表現・処理】 伴って変わる 2 つの数量の関係を表や式に表している。 (発言・ノート)</p>	<div style="text-align: center;">  </div> <p>○変わり方のきまりを見つける。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">□</td> <td style="width: 45%;">段の数 (段)</td> <td style="width: 15%; text-align: center;">1</td> <td style="width: 15%; text-align: center;">2</td> <td style="width: 15%; text-align: center;">3</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">○</td> <td>周りの長さ (cm)</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">8</td> <td style="text-align: center;">12</td> </tr> </table> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>☆四角いカードを操作しながら周りの長さを考える。</p> <p>☆見通しがもてない子どものために、表をかくためのヒントコーナーを設ける。</p> </div> <p>○自力解決 ○全体交流</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・表をたてに見た時、段数に 4 をかけると周りの長さになるね。</p> <p>・表をたてに見た時、周りの長さを段の数でわると 4 になるよ。</p> </div> <p>○四角形の数と周りの辺の長さの変わり方も式を使って表せることに気づく。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>「段の数×4=周りの長さ」になった。つまり、□×4=○になる。</p> </div> <p>○P51 の⑤⑥の問題を全体で確認しながら解く。</p>	□	段の数 (段)	1	2	3	○	周りの長さ (cm)	4	8	12	<p>○変わり方のきまりを見つける。</p> <p>○自力解決 ○小交流 ○全体交流</p> <p>○四角形と周りの辺の長さの変わり方も式を使って表せることに気づく。</p> <p>○P51 の⑤⑥の問題を解く。</p>
□	段の数 (段)	1	2	3										
○	周りの長さ (cm)	4	8	12										
<p>5</p>	<p>しあげの問題に取り組もう。</p>	<p>【知識・理解】 しあげの問題を解き、単元の学習を振り返る。</p>	<p>○P 52 の問題を全体で確認しながら解く。</p>	<p>○P 52 の問題を解く。</p>										

オガタコース（算数ルーム）～操作活動などを取り入れ、じっくり課題に取り組むコース

(1) 児童観

この集団は4年1組の単元ごとに編成される8名による学習集団である。主に本単元のレディネステストの結果を考慮して編成されている。本コースには、課題解決の見通しや自分の考えをもつことに苦手意識を感じることの多い子どもが集まっている。また、基本的な計算スキルについても支援が必要な子どももいる。そのため、普段の授業では、教師の発問によって問題の情報を整理し、既習事項とつなげたり、集団全体で順序立てて思考したりすることで課題解決していくことが多い現状である。しかし、徐々に個別支援をしながらの自力解決の場やペア交流の場を増やしているところでもある。そして、自力解決やペア交流の後には、自信をもって全体交流の場で発表する子どもの姿も見られるようになってきている。

本時では、自力解決を支援するためにヒントを用意したり、個別支援を丁寧に行ったりすることで、どの子どもも自分の考えをもつことができるようにしていきたい。また、自力解決後の交流については全体交流を基本とするが、自力解決ができた子どもにはペア交流を行うことでさらに考えを深め、自信をもって発表できるようにさせたい。

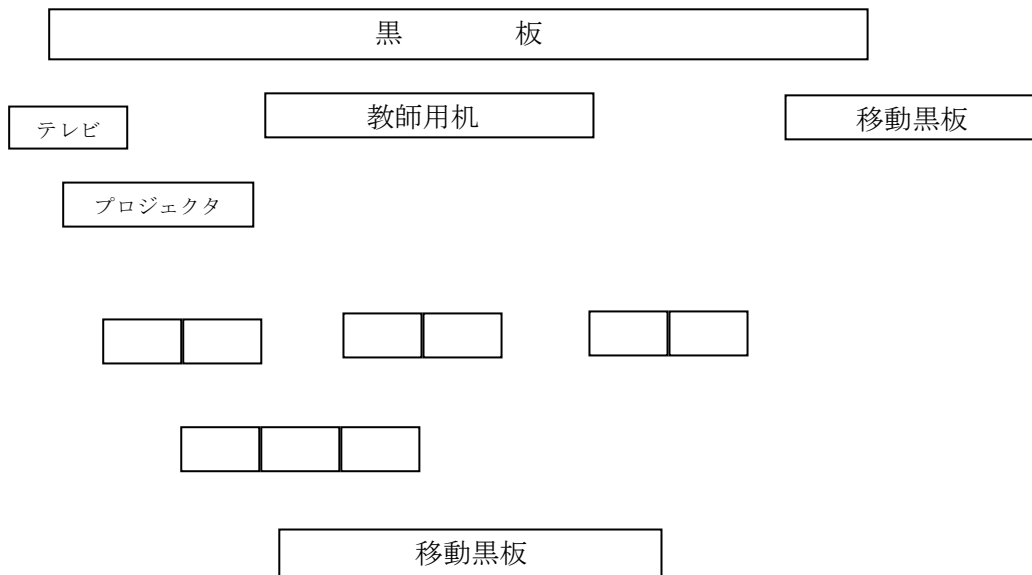
(2) 指導観

本単元におけるレディネステストでは、日常生活における2つの数量の変化の関係を関数の考え方でとらえている子どもが少ないことが分かった。よって、本調査の中から得られた事象に条件を補い数量の関係に目を向けるような提示を単元の初めに計画し、学習を進めていきたいと考える。

また、中学校の実態から、「表を作成する力」を確実に身に付けさせることが必要である。本単元の2時間目に用意されている表の作成の活動においては、特に丁寧な指導が必要であり、全員が理解できるようにしていきたい。

学習の系統表から、3年生の「□を使った式」の学習と密接なつながりがあることが分かる。既習事項として、確認をしていく必要がある。また本単元の学習は、5年生の「比例」の学習へと密接につながっている。「15歳の姿」を意識しながら、確実に基礎基本を定着させる必要がある。

(3) 教室配置

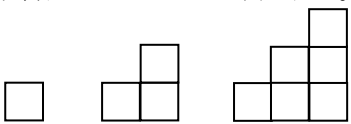




(4) 本時の学習～オガタコース～

1 目標

- ・伴って変わる2つの数量の関係について、変わり方の規則性を見いだすことができる。【数学的な考え方】
- ・伴って変わる2つの数量の関係を表や式に表すことができる。【表現・処理】

2 展開

○子どもの活動	教師のかかわり	【評価規準】(評価方法) ☆努力を要する子への手立て										
<p>○前時の学習を振り返る。 ○本時の学習問題・めあてを確認する。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>④ 階段の数と周りの長さのかわり方のきまりを見つけ、式に表そう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・表に表してみよう。</p> </div> <p>○表を作成する。</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="width:10%; text-align: left;">□</td> <td style="width:15%;">段の数(段)</td> <td style="width:10%;">1</td> <td style="width:10%;">2</td> <td style="width:10%;">3</td> </tr> <tr> <td style="text-align: left;">○</td> <td>周りの長さ(cm)</td> <td>4</td> <td>8</td> <td>12</td> </tr> </table> <p>○変わり方のきまりを見つける。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・表を横に見た時、段の数が1段増えると周りの長さが4ずつ増えているね。 ・表を縦に見た時、段数に4をかけると周りの長さになる。 ・周りの長さは4の段の九九になっているね。</p> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>(自力解決)</p>  <p>(小交流)</p>  <p>(全体交流)</p> </div> <p>○段数を□、周りの長さを○にした時の、□と○の関係を式に表す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>④ 「段の数×4=周りの長さ」になった。つまり、□×4=○になる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・階段の数が増えても計算で周りの長さが出そう。</p> </div> <p>○P49の⑤⑥の問題に取り組み、式に表すよさを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・段の数が50の時の周りの長さを求める。 ・周りの長さが60の時の段の数を求める。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・式って便利だね。 ・式に当てはめると出そうだね。</p> </div> <p>○次時の確認をする。</p>	□	段の数(段)	1	2	3	○	周りの長さ(cm)	4	8	12	<p style="text-align: center;">教師のかかわり</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・掲示物などを参考にしながら、振り返るようにする。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・視覚にうったえるような教材を用意する。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・階段を6段まで提示し、全体で確認しながら表を作成する。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・自分の考えに自信をもったり、友達の考えを知ったりするための小交流の場を設定する。</p> </div>	<p style="text-align: center;">【評価規準】(評価方法) ☆努力を要する子への手立て</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【数学的な考え方】 伴って変わる2つの数量の関係について、変わり方の規則性を見いだしている。 (観察・ノート)</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>☆見通しをもてない子どものために、ヒントを用意する。 (ヒント1) だんの数が1ずつふえると、周りの数は□ずつふえる。 (ヒント2) だんの数の□倍が、まわりの長さを表す数になっている。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【表現・処理】 伴って変わる2つの数量の関係を表や式に表している。 (ノート・発言)</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>☆見通しがもてない子どもには、式の確認や表の見直しを行うよう声をかける。</p> </div>
□	段の数(段)	1	2	3								
○	周りの長さ(cm)	4	8	12								

ササキコース（4年1組教室）～学び合いの活動から、考えを深めていくコース

(1) 児童観

本コースには、基本的な計算スキルについては十分身に付いている児童が集まっている。また課題解決の見通しをもち、自分の考えを発表することが得意な児童も多い。したがって子ども同士で学び合いを行い、考えを深めていくことができる素地の整った集団といえる。

子どもは、「折れ線グラフと表」の学習で資料を分類整理し、表を用いて分かりやすく表すことを学習してきた。また、未知の数量を表す記号として□を用いる学習では、ほとんどの子どもが□を用いて式に表すことができるようになってきている。しかし、文脈通りに数量の関係を式に表わせなかったり、式が表している場面などの意味を読み取れなかったりする子どもが数名いる。

また、式を用いて自分の考えを説明することを苦手としている子どももいる。交流の場において、自分の考えを式や図などを用いながら発表する活動を重ねることで、より効果的な学び合いを行い、深い学びの獲得を目指していく。

(2) 指導観

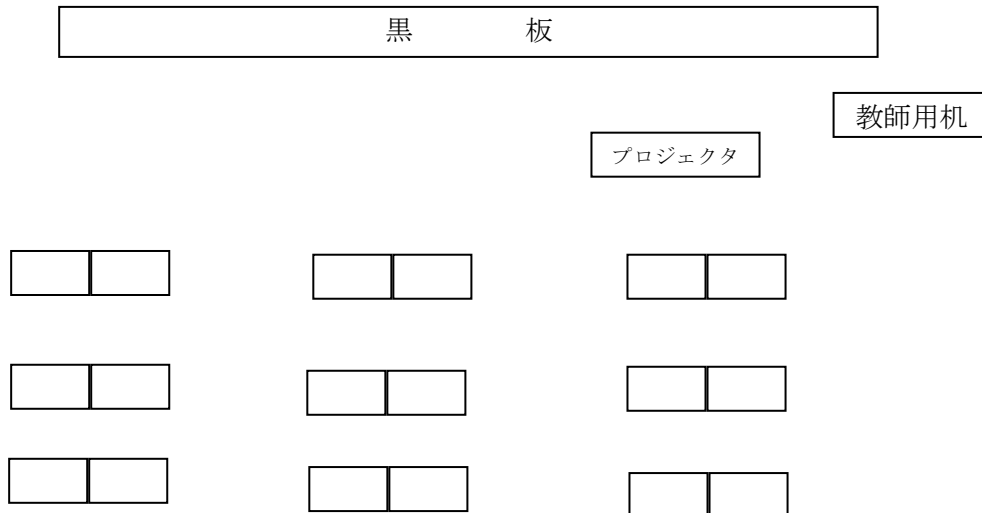
本単元におけるレディネステストでは、日常生活における2つの数量の変化の関係を関数の考え方でとらえている子どもが少ないことが分かった。本調査の中から得られた結果を考慮しながら、数量の関係に目を向けるような提示の仕方を工夫し、学習を進めていきたいと考える。

また、中学校の実態から、「表を作成する力」を確実に身に付けさせることが必要であると考えている。自力解決場面において理解が不足した場合には、必ず交流場面でお互いの考えを聞き合う活動を通して、基礎基本を習得できるようにしていく。

学習の系統表から、3年生の「□を使った式」の学習と密接なつながりがあることが分かる。既習事項として、確認をしていく必要がある。また本単元の学習は、5年生の「比例」の学習へと密接につながっている。「15歳の姿」を意識しながら、確実に基礎基本を定着させる必要がある。

本コースは自力解決の後、小交流、全体交流の流れで学習を進めることを基本としている。子ども同士による学び合いの活動から、多面的多角的に物事を考えさせ、深い学びの獲得を目指していく。

(3) 教室配置

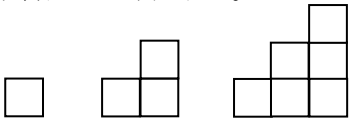




(4) 本時の学習～ササキコース～

1 目標

- ・伴って変わる2つの数量の関係について、変わり方の規則性を見いだすことができる。【数学的な考え方】
- ・伴って変わる2つの数量の関係を表や式に表すことができる。【表現・処理】

2 展開

○子どもの活動	教師のかかわり	【評価規準】(評価方法) ☆努力を要する子への手立て												
<p>○前時の学習を振り返る。</p> <p>○本時の学習問題を確認する。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>○段の量に伴って変わる量にはどんなものがあるか考える。</p> <p>○本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>◎階段の数と周りの長さのかわり方のきまりを見つけ、式に表そう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・表に表してみよう。</p> </div> <p>○表を作成する。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 5%;">□</td> <td style="width: 15%;">段の数 (段)</td> <td style="width: 5%;">1</td> <td style="width: 5%;">2</td> <td style="width: 5%;">3</td> <td style="width: 5%;">4</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>周りの長さ (cm)</td> <td>4</td> <td>8</td> <td>12</td> <td>16</td> </tr> </table> <p>○変わり方のきまりを見つける。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・表を横に見た時、段の数が1段増えると周りの長さが4ずつ増えているね。</p> <p>・表を縦に見た時、段数に4をかけると周りの長さになるね。</p> <p>・周りの長さは4の段の九九になっているね。</p> </div> <div style="text-align: center; margin: 5px 0;"> <p>(自力解決)</p>  <p>(小交流)</p>  <p>(全体交流)</p> </div> <p>○段数を□、周りの長さを○にした時の、□と○の関係を式に表す。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>「段の数×4＝周りの長さ」になった。つまり、□×4＝○になる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・階段の数が増えても計算で周りの長さが出そう。。</p> </div> <p>○P49の⑤⑥の問題に取り組み、式に表すよさを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・段の数が50の時の周りの長さを求める。周りの長さの長さが60の時の段の数を求める <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・式って便利だね。</p> <p>・式に当てはめると出そうだね。</p> </div> <p>○次時の確認をする。</p>	□	段の数 (段)	1	2	3	4	○	周りの長さ (cm)	4	8	12	16	<p style="text-align: center;">教師のかかわり</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・掲示物などを参考にしながら、振り返るようにする。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・視覚にうったえるような教材を用意する。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・レディネステストの問題を想起させ、伴って変わる2量関係を見つけさせる。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・階段の図を提示し、周りの長さの確認をしながら支援する。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・多面的多角的に物事を見つめ、考えを深めるために小交流の場を設定する。</p> </div>	<p style="text-align: center;">【評価規準】(評価方法) ☆努力を要する子への手立て</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【数学的な考え方】</p> <p>伴って変わる2つの数量の関係について、変わり方の規則性を見いだしている。 (観察・ノート)</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>☆見通しをもてない子どものために前時に行った</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表を縦に見る ・表を横に見る 活動を想起させる。 </div> <div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【表現・処理】</p> <p>伴って変わる2つの数量の関係を表や式に表している。 (ノート・発言)</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>☆見通しがもてない子どもには、式の確認や表の見直しを行うよう声をかける。</p> </div>
□	段の数 (段)	1	2	3	4									
○	周りの長さ (cm)	4	8	12	16									

レディネステスト

名前

1 6のだんの九九について考えます。

□に当てはまる数をかきましょう。

$$\begin{array}{r}
 6 \times 1 = 6 \\
 \downarrow \text{1ふえる} \quad \downarrow \square \text{ふえる} \\
 6 \times 2 = 12 \\
 \downarrow \text{1ふえる} \quad \downarrow \square \text{ふえる} \\
 6 \times 3 = 18 \\
 \downarrow \text{1ふえる} \quad \downarrow \square \text{ふえる} \\
 6 \times 4 = 24
 \end{array}$$

2 次の言葉の式であらわされる問題は、下の㉠～㉣のどれですか。1つ選んで、記号で答えましょう。

$$\boxed{\text{1まいのねだん}} \times \boxed{\text{買った枚数}} = \boxed{\text{代金}}$$

- ㉠ 1まい5円の紙を3まい買いました。代金はいくらですか。
- ㉡ 1まい5円の紙と3円の紙を買いました。代金はいくらですか。
- ㉢ 1まい5円の紙を買います。15円では何まい買えますか。

3 親犬の体重は20kgで、子犬の体重の4倍です。

子犬の体重を□kgとして、このことをかけ算の式に表しましょう。

※つぎの問題は、まだ習っていません。チャレンジしてみましょう。

4 □+○=10の式で、□にあてはまる数が0, 1, 2, 3, 4のとき、○にあてはまる数は、それぞれいくつになりますか。下の表に書き入れましょう。

□	0	1	2	3	4
○					

(うらにもあります)

5

(1) 「一方がふえると、もう一方がへるもの」を書きましょう。

がふえると

へる。

がふえると

へる。

がふえると

へる。

(2) 「一方がふえると、もう一方もふえるもの」を書きましょう。

がふえると

もふえる。

がふえると

もふえる。

がふえると

もふえる。

平成30年度 「北日吉学習スタンダード」

	き (聞く) しっかり <small>き</small> く	た (話す) <small>た</small> くさんの人に 聞こえる声, ちょうど良い声で話す	ひ (学習準備) <small>ひ</small> つような準備をする	よ (書く) <small>よ</small> く見て書く <small>めよたま</small>	し(書く) 字・線・色 <small>し</small> っかり書く
低学年	静かに聞く 相手の方を向いて聞く おしゃべりをしない	相手の方を見て話す	休み時間のうちに次の学習の準備をする チャイム着席をする	黒板をよく見て写す	マスの中に字を書く じょうぎ下じきを使って書く こい鉛筆で大きく丁寧に書く
中学年	相手の方を向いて聞く おしゃべりをしない	丁寧な言葉づかいで話す	休み時間のうちに次の学習の準備をする チャイム着席をする 忘れ物をしたら, 授業前に先生に伝える	日付やページ, 問題番号をよく分かるように書く <small>めよたま</small> をしっかりと書く	しっかりと字を書く(点やはね, はらいに気を付けて)
高学年	自分との共通点や違いに気を付けながら聞く	「まず」「それから」「だから」「そのわけは～」などの言葉を使いながら話す。	休み時間のうちに次の学習の準備をする チャイム着席をする 忘れ物をしたら, 授業前に先生に伝える	しっかりとノートを書く(あとで見直すことができるよう, 色分けしながら書く)	自分の考えを相手によく伝わるように書く
中学校 ※各教科のめあてから抜粋	先生や友達の話を聞いて, 自分なりの意見や感想をもちながら聞きましょう。	相手に理解してもらえるように話したり書いたりして伝えましょう。 疑問があったら遠慮せず質問しましょう。	チャイムが鳴る前に, 「教科書」「ノート」「ワーク」を準備しましょう。 忘れ物をした場合は授業が始まる前に先生に言いに来ましょう	板書をきちんとノートに写す。(そのまま書くだけでなく, 大事なことをまとめたり思いついたことを書き留めたりメモを取る習慣を付けましょう。)	ノートは「自分の参考書」となります。気付いたことやメモをどんどん書き込みましょう。

家庭学習の手引き

本校では、基礎的・基本的な知識や技能を習得させるための授業づくり、読書活動の充実など、学力向上のための取組を進めております。

家庭学習は、学校で学習したことをしっかり身に付ける事とともに、自ら学ぶ習慣を身に付けるために大切なものです。

「家庭学習の手引き」を参考に、家庭学習の習慣化が図られますよう、ご協力をお願いいたします。

函館市立北日吉小学校 小川 祥子

宿題と自学の押さえ

- ・宿題とは・・・各担任から出される課題です。学習内容やクラスの実態に合わせてあります。必要最低限度のものと押さえています。ほぼ毎日出されますので、提出を忘れないようにする必要があります。
- ・自学とは・・・自主学習のことです。宿題では足りない内容を補ったり自分に必要な学習を考えて取り組んだりします。ノート・ドリルなどの形態は問いません。
- ・「宿題」と「自学」の両輪を合わせて「家庭学習」と呼ぶこととします。

家庭学習のめあて 「きたひよし」

き・・・きめられた時間以上、学習に取り組む。

1年生～20分以上 2年生～30分以上 3年生40分以上
4年生～50分以上 5年生～60分以上 6年生70分以上

た・・・たくさん本を読む。

「10分+α」の読書習慣を付けることを目指します。

ひ・・・ひとは忘れてしまうことがある。だからこそくり返して学習に取り組む。
学力向上、学習内容の定着そして家庭学習の習慣を身に付けるためには、くりかえし学習に取り組むことが必要です。

よ・・・よけいなことに気をとられないよう、テレビは消す、スマホを手放す、机の上を整理してから行うなどして集中して学習に取り組む。
テレビやゲーム、インターネットや携帯電話などのメディアに触れる時間は、「1日合計2時間以内」が目安とされています。

し・・・しゅうかん（習慣）を身に付けるため、毎日家庭学習に取り組む。

家庭学習の参考例

国語	<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがな・カタカナ・漢字をノートに練習する。 ・習った漢字を使って短い文を作る。 ・教科書の文章を音読する。 ・教科書の文章を書き写す。 ・分からない言葉の意味を辞書で調べる。 ・ローマ字を使って、字や文章を書く。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・たし算、ひき算、かけ算、わり算などの計算をする。 ・文章問題を解いたり、作ったりする。 ・コンパスや定規を使って作図する。 ・表やグラフを作成する。 ・教科書の問題を復習する。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・その日をふり返り、日記を書く。本や図鑑、新聞を読む。 ・テストの予習、復習をする。 ・地図を使って、場所や地名を調べる。 ・47都道府県の位置と名前を覚える。 ・興味のあることを調べて新聞づくりをする。

宿題と自学の比重

低学年	宿題	自学	宿題中心
中学年	宿題	自学	バランス
高学年	宿題	自学	自学中心

宿題と自学の量については、個人によって差があります。ご家庭でよく相談して、家庭学習に取り組ませてください。

学年で身に付けさせたい力

「習慣付け」の1年生 ～学校生活に慣れ、学習に向かう姿勢を身に付ける。

- ① ひらがな、かたかなの清音の読み書きができる。
- ② 助詞（て、に、を、は）を適切に使って文章が書ける。
- ③ 80字の配当漢字のすべてが読め、8割以上の漢字が書ける。
- ④ えんぴつを正しく持って、字が書ける。
- ⑤ たし算、ひき算ができる。



「習慣定着」の2年生 ～好奇心と同時に根気強さが芽生える。

- ① 160字の配当漢字の全てが読め、8割以上の漢字が書ける。
- ② 教科書の文章をすらすら読める。
- ③ 順序よく話をする事ができる。
- ④ 九九をすらすら言える。
- ⑤ たし算とひき算の筆算ができる。
- ⑥ 決められた長さの直線を正しく書ける。

「分岐点 突入」の3年生 ～社会・理科の学習が加わる。学習の自立への入り口

- ① 200字の配当漢字の全てが読め、8割以上の漢字が書ける。
- ② 国語辞典を使って言葉を調べられる。
- ③ 筋道を立てて分かりやすく話したり、書いたりすることができる。
- ④ かんたんなわり算やかけ算の筆算ができる。
- ⑤ 重さをはかり、表わすことができる。
- ⑥ 千万の位までの数を読んだり、書いたりすることができる。

「9歳の壁を乗り越える」4年生～自ら進んで学習に取り組む。

- ① 200字の配当漢字の全てが読め、8割以上の漢字が書ける。
- ② ローマ字の読み書きができる。
- ③ 国語辞典や漢字辞典を正しく使える。
- ④ わり算の筆算ができる。
- ⑤ コンパスを使って簡単な図形がかける。
- ⑥ 47都道府県名すべてを覚えている。

「学力に差が付く分岐点」5年生～思考力・判断力を要する問題に対応できる。

- ① 185字の配当漢字の全てが読め、8割以上の漢字が書ける。
- ② 習った漢字を使った熟語の8割以上が書ける。
- ③ 小数のかけ算、わり算ができる。
- ④ 分母が同じ分数のたし算・ひき算ができる。
- ⑤ 割合・百分率を使った問題が解ける。
- ⑥ 47都道府県の位置が分かり、正しく書ける。



「中学校生活への希望をもつ」6年生～小学校の学習のまとめ、基礎基本の定着

- ① 小学校で習得すべき漢字の全てが読め、8割以上の漢字が書ける。
- ② 分数・小数のたし算やひき算・わり算・かけ算ができる。
- ③ 様々な文章の内容をとらえながら、読むことができる。
- ④ 歴史上の事件や人物について、大体わかる。
- ⑤ 世界中の主な国々の位を、正しく示すことができる。
- ⑥ 理科の基本的な原理や法則が分かる。また、実験器具の正しい使い方を知っている。

学力と生活習慣は密接な関係があります。チェックしてみてください。

- 【家庭学習・読書】 学校の授業時間以外での学習時間が長い。 自分で計画を立てて勉強している。
 学校の宿題、授業の予習復習をしている。 読書が好き・読書時間が長い
- 【基本的な生活習慣】 朝食を毎日食べている。 毎日、同じくらいの時刻に寝ている。
- 【メディアとの関係】 スマホ・インターネット・ゲームをする時間が短い。
- 【家庭でのコミュニケーション】 学校での出来事について話をしている。
- 【社会に対する興味・関心】 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。
- 【自尊意識・規範意識】 ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。
 学校の決まり・規則を守っている。
 人の気持ちが分かる人間になりたいと思っている。

この手引きをよく見える所に貼り家庭学習の習慣化を進めましょう



家庭学習の手引き

学校教育目標

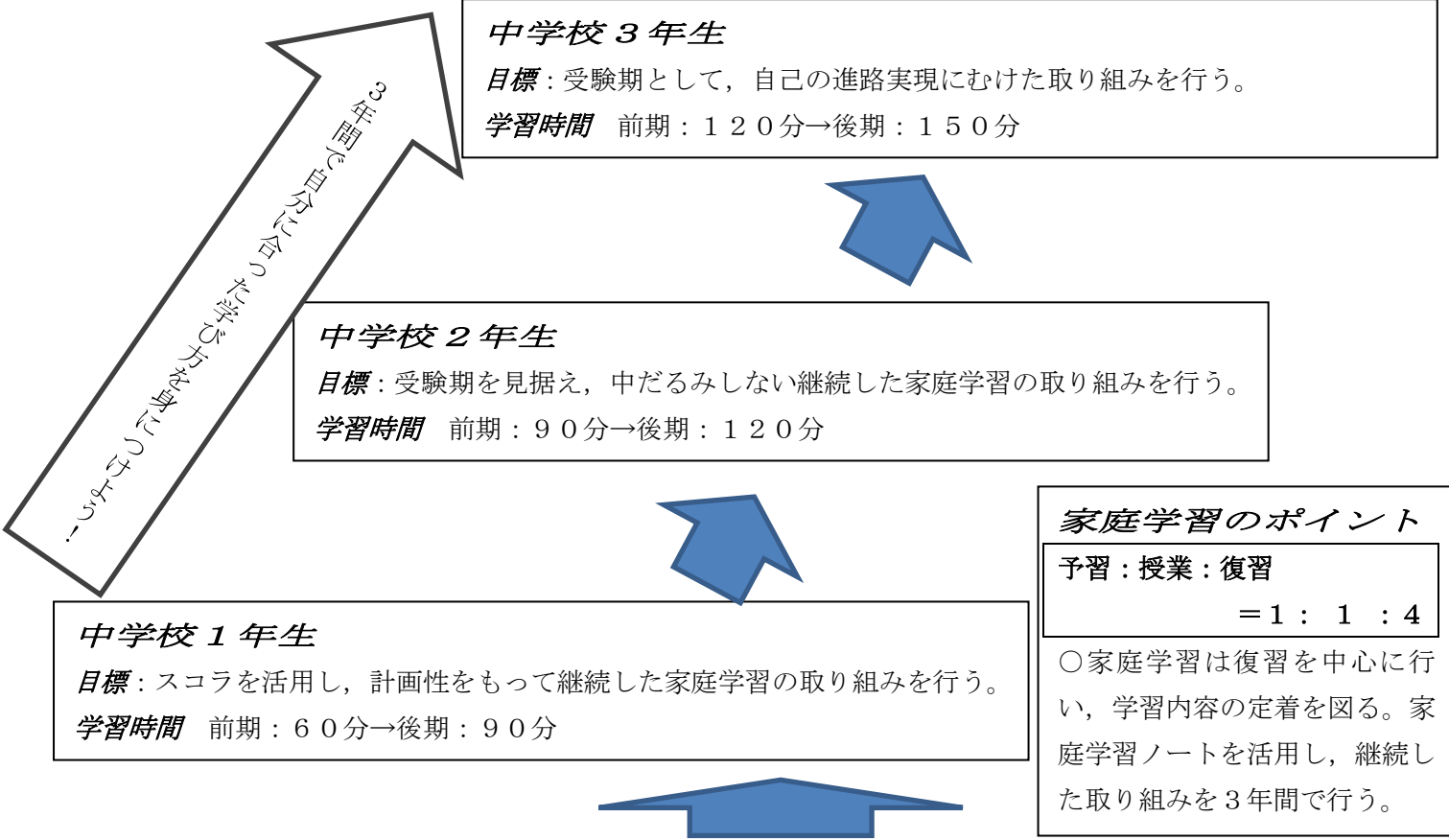
- 【向上】自らめあてをもち粘り強く学習する生徒
- 【協調】豊かな心をもちみんなのために尽くす生徒
- 【健康】健康や安全につとめ進んで運動する生徒

重点教育目標

『自ら考え 自ら学び 主体的に行動する 生徒の育成』

家庭学習に取り組むと、こんな力が育ちます！

- ・自ら学ぼうという態度を養い、生涯にわたって学ぶ力。
- ・継続して取り組む根気強さ、自分の課題や苦手なことを考える力、克服する力。



中学校3年生

目標：受験期として、自己の進路実現にむけた取り組みを行う。

学習時間 前期：120分→後期：150分

中学校2年生

目標：受験期を見据え、中だるみしない継続した家庭学習の取り組みを行う。

学習時間 前期：90分→後期：120分

中学校1年生

目標：スコラを活用し、計画性をもって継続した家庭学習の取り組みを行う。

学習時間 前期：60分→後期：90分

家庭学習のポイント

予習：授業：復習

= 1 : 1 : 4

○家庭学習は復習を中心に行い、学習内容の定着を図る。家庭学習ノートを活用し、継続した取り組みを3年間で行う。

東山小学校

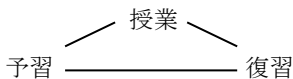
家庭学習のめあて

- 毎日やりましょう。
- 時間をきめてやりましょう。
- バランスよくやりましょう。

学習時間

6年生：60分以上（学年×10分以上）

学習について



復習だけでなく、予習にも慣れることが大切

北日吉小学校

家庭学習のめあて

- き：きめられた時間以上に取り組む
- た：たくさん本を読む
- ひ：人は忘れてしまうことがある。だからこそ、繰り返して学習に取り組む。
- よ：よけいなことに気をとられないよう、テレビは消す、スマホは手放す
- し：習慣を身につけるため、毎日家庭学習に取り組む

学習時間

6年生：70分以上(自学中心の家庭学習)



学習について

「中学校生活への希望をもつ」6年生
～小学校の学習のまとめ、基礎基本の定着

日吉ヶ丘小学校

家庭学習のめあて

- 学習したことをしっかりと身につける。
- 自ら学ぶ習慣を身につける

学習時間

6年生：60分以上（学年×10分以上）

学習について

- ② 机の上や部屋の整理整頓をしましょう。
- ② テレビを消して静かに集中して取り組みましょう。
- ③ 学習に必要なものをそろえるようにしましょう。
- ④ お家の人が学習している様子を見守り、声をかけてあげましょう。
- ⑤ 宿題を終わらせる。
- ⑥ 予習・復習をする。
- ⑦ 自分で考えた学習に取り組む。

学習常規について（函館市立北中学校）

重要	1. チャイム着席を守る 2. 忘れ物をしない 3. 授業中私語をしない
4. 休み時間のうちに移動し、教科書・ノート・資料などの準備をしよう。 5. 授業のはじめと終わりのあいさつは、係の号令に従ってきちんとしよう。 6. 先生の説明や仲間の発表は、集中してしっかり聞こう。 7. 指名されたら、「はい」とはっきり返事をしよう。 8. 質問や意見など、挙手して積極的に発言しよう。 9. 授業に遅れた場合は、必ず先生に報告し、理由を伝えよう。	

◎特に1年生のうちに身につける学習常規について

1. 移動は休み時間内に行う。

- ・中学校では理科室や音楽室などの特別教室を使用することが多くあります。授業が始まってからの移動では授業の開始に遅れ準備もできません。教科連絡係を中心に、まとめて休み時間内に移動を完了し、すぐに授業が始められるように心の準備もしておきましょう。
- ・机・いすを整頓し電気を消し、係生徒は出席簿を持って移動しましょう。

2. チャイムが鳴り終わるまでに座席に着き、学習用具を準備する。

- ・昼休み以外は、次の授業の準備をする時間であり、自由に遊んで良い時間ではありません。チャイムが鳴り終わるまでに座席につき、教科書やノートを開き、用具や資料を机の上にそろえておきましょう。
- ・「さあ学習するぞ」という気持ちで先生を待ってられる学級にしましょう。

3. 発表者の目を見て、よく聞く。

- ・先生の説明や仲間の発表に注目しましょう。発言する人の目をよく見て、よく聞きましょう。また、発言内容の重要な点は、ノートにメモをする習慣をつけましょう。他の人の発言をばかにしたり、笑ったりするような態度はとらないようにしましょう。

4. 指名されたら、返事をしてはっきり答える。

- ・指名されたのに、いつまでも黙っているのはいけません。指名されたら「はい」と返事をしましょう。
- ・答えがわからないときは、「わかりません」と答えましょう。

5. 発言は手を挙げて、みんなにわかるように話す。

- ・授業中の発言は、手を挙げて、指名されてからにしましょう。
- ・自分の疑問や意見を積極的に出し合うことは、みんなが理解を深める上で大切なことです。

6. 忘れ物はしない。

- ・忘れ物をしてしまっても、友達から借りることも貸すこともしてはいけません。家に取りに帰ることも禁止です。
- ・万が一忘れ物をしてしまったときは、必ず教科担任の先生に報告し、指示を仰ぎましょう。

北日吉小学校 学力向上 年間計画

		担当	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
行事			全国学力・学習状況調査	結果分析開始	運動会 学力向上委員会 考察・・・改善策の 検討	結果の全体周知 全校体制確立 チャレンジテスト 1学期末問題	チャレンジテスト 1学期末サポート問 題	過去問題への取組 (5年生)	過去問題への取組 (5年生)	過去問題への取組 (5年生)	チャレンジテスト 2学期末問題	チャレンジテスト 2学期サポート問題 CRTの実施・検証・ 改善	学力学習状況調査 過去問題への取組 (5年生)	過去問題への取組 (5年生)	
		学術発表会													
学校マネジメント	全体計画(Grandデザイン の作成)	教頭	学校経営要項 経営方針の周知	学力向上年間計画作成開 始	年間計画決定 各部計画実施	各部の計画進行状 況点検・改善							反省	年間計画見直し	
	検証改善サイクルの 実質化、迅速化 (PDCAサイクル)	教頭	計画 各部との調整	実行 各部計画実施		評価・改善					評価・改善		評価	改善	
	学力向上委員会 調整	教頭	学力向上委員会発足	第1回学力向上委員会 (自校採点による分析)				第2回学力向上委員会(2 次分析と2学期からの取 組)				第3回学力向上委員会(評 価)		第3回学力向上委員会(次 年度への課題)	
人材育成	管理職による日 常的な巡回指導	校長 教頭	巡回指導による各クラスへ の支援										九九リンピック(2年生)		
	メンターチームによる研修 ミニ研修(放課後のテーマ研 究)	主幹					放課後模擬授業の 実施								
各学年の学習 内容の 指導・ 指導方法 の 確実な 定着を 図る ための	学習規律	教務	学習スタンダード掲 示	各クラスでの実践・検証					スタンダード定着調査				反省アンケート配付	改善案揭示	新学習スタンダード決定
	家庭学習	教務	家庭学習のきまり 各家庭への配付 懇談会での周知	家庭学習のめあて 作成と反省(月ごと) 各クラスでの実践・検証	家庭学習ノート 高学年の見本揭示			家庭学習 実態調査					家庭学習 実態調査	家庭学習のきまり 反省と 改善 懇談会での意見集約	
	朝学習	教務	基礎基本徹底			チャレンジテスト取組	チャレンジテスト取組		漢字検定実施		チャレンジテスト取組	チャレンジテスト取組			
	年間指導計画	教務	重点指導指導項目	実施・検証									反省を受け指導計画 の改善	次年度指導計画 の作成	
	学習サポート	教務				サポート実施 チャレンジテスト過去問題 の実施					サポート実施 チャレンジテスト過去問題 の実施	サポート実施 チャレンジテスト過去問題 の実施			
	算数科における少人数指導 IT指導の実施	教務	2～6年生 におけ る 複数指導					習熟度別授業 改善							
	授業改善	研究	探求型の授業の充実 問題解決的な学習過程の 徹底 評価による意欲向上			研究授業などにおける 交流			研究授業などにおける 交流		研究授業などにおける 交流				
	読書活動の充実	文化	朝読書	朝読書	朝読書	朝読書	朝読書 読書感想文への取組	朝読書 辞書早引き大会	朝読書 辞書早引き大会	読書月間 読書カードの取組	朝読書	朝読書 読書感想文への取組	朝読書	朝読書	
	体力向上	保健			体カテスト 実施	集計・分析	改善策提示	改善策提示	取組開始 どさんこ元気アップチャレンジへ の取組						
	生活のきまり 教育相談	生指	校内生活のきまり 周知徹底		教育相談					教育相談					
	生活リズムチェック シートの活用	生指													
	小中接続 (算数科中心)	主幹	学力向上年間計画 作成開始(小中接 続プラン)	学力向上プラン作 成 計画実施			学力向上プラン(2 学期以降分)作成 計画実施	家庭学習強化週間(11日 ～18日) 中学校テスト19日	学プロ公開授業 「算数」予定	庭学習強化週間(9日～15 日) 中学校テスト15・16日		家庭学習のきまり 学習スタンダード 反省	庭学習強化週間(15日～ 21日) 中学校テスト21・2 2日	家庭学習のきまり 学習スタンダード 小中接続	
地域との連携	コミュニティースクール	教頭	第1回学校運営協議会					第2回学校運営協議会				第3回学校運営協議会		H31 第1回学校運 営協議会	
	アフタースクール	主幹		アフタースクール開 始 ※家庭学習ノート 指導等を含め			重点指導項目に 関わる練習問題				アフタースクール終 了				
	参観日・地域公開日	教務	4月21日(土)PTA 総会・情報モラル教 室・参観日	3日(火)低学年 4日(水)高学年 参観日・懇談会			8月27日(月) 参観日				11月1日(木) 地域学習参観(道 徳公開)	12月4日(火) 参観日・懇談会		25日(月)高学年 26日(火)低学年 参観日・懇談会	

		学習内容	身に付けさせたい資質・能力	学習内容	身に付けさせたい資質・能力										
中 学 校	3年生 「15歳の姿」	2次方程式	3種の解き方 <因数分解・平方完成・解の公式> 文章問題のxの設定と立式	関数 $y = ax^2$	グラフと図形の関連 変化の割合の意味と変域の理解 グラフの交点										
	2年生	連立2元1次方程式	加減法と代入法 等式変形 文章問題のx・yの設定と2本の式の立式	1次関数	1次関数⇔直線の式 という考え方 交点の求め方とその意味 グラフの変化の割合の意味										
	1年生	1元1次方程式	文字式と方程式の区別 移項 比例式 文章問題のxの設定と立式	比例・反比例	変数・定数・変域の意味 グラフの有用性 身のまわりの事象を比例・反比例でとらえようとする力										
		学習内容		身に付けさせたい資質・能力											
小 学 校	6年生	比	ミルクティーを1200mL作ろうと思います。牛乳と紅茶を3:5の割合で混ぜるとき、牛乳は何mL必要ですか。 $3:8 = x:1200$	比例 yをxの式で表すと $y = \text{決まった数} \times x$ 反比例 yをxの式で表すと $y = \text{決まった数} \div x$											
		比例と反比例													
	5年生	二つの数量の関係の□や△を使った式表現	1mの値段が80円のリボンがあります。買う長さが1m, 2m, 3m・・・と変わると、それにもなって代金はどのように変わりますか。長さ□mと代金○円の関係を表しましょう。 $80 \times \square = \bigcirc$												
		比例の定義	2つの量□と○があり、□が2倍, 3倍・・・になると、それにもなって○も2倍, 3倍・・・になる時、「○は□に比例する。」といいます。												
	4年生	二つの数量の関係の□や△を使った式表現	<table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td>□ 段の数 (段)</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>・・・</td> </tr> <tr> <td>○ 周りの長さ (cm)</td> <td>4</td> <td>8</td> <td>12</td> <td>・・・</td> </tr> </table> $\Delta = 4 \times \square$	□ 段の数 (段)	1	2	3	・・・	○ 周りの長さ (cm)	4	8	12	・・・		
		□ 段の数 (段)	1	2	3	・・・									
	○ 周りの長さ (cm)	4	8	12	・・・										
	四則混合の計算と計算順序	140円のチーズバーガーと210円のパンケーキを1つずつ買って、500円玉を出し、おつりを150円もらいました。このことを下の言葉の式に当てはめて、1つの式に表しましょう。 <u>出したお金 - 代金 = おつり</u>													
	3年生	除法の場面の式表現	ケーキが34こあります。1箱に4個のケーキをいれていきます。全部のケーキを入れるには、箱は何箱あればよいでしょうか。 (式) $23 \div 4 = 5$ あまり3 (答)6箱												
		□を使った式	次のページの絵を見て、下のかけ算の式になる場面のお話を作りましょう。 (ア) $4 \times \square = 24$ (イ) $\square \times 4 = 24$ 24人の子どもが、車に乗るために並んでいます。 分からない数を□として、お話を作りましょう												
2年生	加減法の相互関係	赤い色紙と青色色紙があります。全部で60枚です。そのうち、赤い色紙は35枚で、青色色紙は25枚です。このことを図に表しましょう。 全部で () 枚 <table border="1" style="margin: 10px auto; width: 100px; height: 20px;"> <tr> <td style="width: 50%;"></td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> </table> 赤 () 枚 青 () 枚													
	>, <を使った数量や式の大小の関係	ひろしさんは150円もっています。80円のジュースとお菓子を買います。どのお菓子が買えますか。たし算をして考えましょう。 (ガム50円 キャラメル100円 チョコレート70円) $150 > 80 + 50$ $150 < 80 + 100$ $150 = 80 + 50$													
()の意味と加減法	リボンが12メートルあります。何メートルか使って、まだ ()メートルのこっています。使ったリボンは何メートルですか。 はじめにあった12メートル <table border="1" style="margin: 10px auto; width: 100px; height: 20px;"> <tr> <td style="width: 50%;"></td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> </table> 使った□メートル のこり ()メートル														
1年生	加減の場面の式表現	たまごは合わせていくつですか。 $3 + 9 = 12$ はとが7わ、すずめが15わいます。どちらがなんわおおいでしょうか。 $15 - 7 = 8$													

数 学 科 指 導 案

日 時：平成30年11月 8日 第5校時
 学 級：函館市立北中学校 1年B組 25名
 指導者：教諭 小林 元貴

1. 単元名 第4章「比例と反比例」

2. 単元について

学習指導要領の目標・内容 目標 数学的活動を通して、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察し表現する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、それらを活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる。 内容 C 関数 (1) 具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、比例、反比例の関係についての理解を深めるとともに、関数関係を見だし、表現し考察する能力を培う。 ア 関数関係の意味を理解すること。 イ 比例、反比例の意味を理解すること。 ウ 座標の意味を理解すること。 エ 比例、反比例を表、式、グラフなどで表し、それらの特徴を理解すること。 オ 比例、反比例を用いて具体的な事象をとらえ説明すること。 [用語・記号] 関数 変数 変域
--

既習事項	生徒の実態	単元の特徴
小学校 (4年) ともなって変わる数量の関係 □, ○を用いた式 (5年) 簡単な比例の関係 単位量あたりの考え (6年) 比, 比の値 比例, 反比例 中学校1年 (1) 正負の数 (2) いろいろな数量を文字を使って表すこと (3) 代入と式の値 (4) 数量の間の関係を等式で表すこと (5) 不等式の表し方 (6) 方程式を解くこと	○ 中学校入学後、数学に対する苦手意識は若干あるようだが、授業には熱心に取り組んでいる。しかし、学力の差が大きく、生徒間の教え合い授業を進めている。その中で、予習を取り入れた授業を行い、グループでの反転学習を行っている。少しずつではあるが、説明する力、相手に伝える力が向上してきている。 ○ 基本的な計算はおおむねできているが、分数や小数の計算など複雑な計算では、困難な状況が見られる。 ○ 1あたり量の概念が乏しい。そのため、 x と y の関係を理解していくことが厳しいと考えられる。そこで、導入段階から関数の意味と変数の意味をしっかりと理解できるよう指導してきた。	関数的な考え方は、小学校から順次学習してきている。この章では、小学校の学習内容との関連を図りながら変域を負の数まで拡張し、具体的な事象の中から比例、反比例の関係を見出し、これらの学習を通して、比例、反比例の見方や考え方を育成するようにする。そのために、変数の意味、関数の意味を理解し、比例、反比例の関係を表す手段として、表、式、グラフを扱い、対応関係を理解できるようにする。 また、グラフでは、平面上の点の座標を導入し、関数を視覚的に表現していく。そして、具体的な事象を考察したり、問題を解決したりすることを通して、比例、反比例のよさや有用性を理解できるようにし、関数的な見方や考え方の良さを実感できるようにする。

単元の目標 ○ 具体的な事象を通して、比例、反比例について理解を求めるとともに、関数の関係を見出し表現し考察する能力を培う。 【数学への関心・意欲・態度】 ○ 様々な事象を比例、反比例などでとらえたり、表、式、グラフなどで表したりするなど、数学的に考え表現することに関心を持ち、意欲的に数学を問題の解決に活用して考えたり判断したりしようとしている。 【数学的な見方や考え方】 ○ 比例、反比例などについての基礎的・基本的な知識及び技能を活用しながら、事象を見通しをもって論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりするなど、数学的な見方や考え方を身に付けている。 【数学的な技能】 ○ 比例、反比例などの関数関係を、表、式、グラフなどを用いて的確に表現したり、数学的に処理したりするなど、技能を身に付けている。 【数量や図形などについての知識・理解】 ○ 関数関係の意味、比例や反比例の意味、比例や反比例の関係を表す、表、式、グラフの特徴を理解し、知識を身に付けている。
--

3. 北日吉小学校・北中学校 学力向上に向けた取り組み

<p>視点1 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善</p>	<p>視点2 小・中学校接続を意識した指導</p>
<p>① 学び合いのコーディネート</p> <p>・主体的・対話的で深い学びを実現するためには、生徒自身が学びに向かう主体的な姿勢を育成する必要がある。そこで、教師が主体となる授業を実践するのではなく、生徒が主体的に活動できるような授業を考えていくことが重要である。そのために、自力解決を踏まえた小集団を設定するなど学び合いが活性化するような授業づくりを行っている。また、討論や意見交換など対話を重視した学び合いを深め、視覚的に表現できるようにする。これらの活動を各教科で実践し、生徒が互いの意見や考えを比較・検討する活動を取り入れることで学びが深まるようになって考えている。</p>	<p>①学習の系統図の共有と「15歳の姿」の設定（資質・能力の明確化）</p> <p>・北日吉小学校と北中学校では、小・中学校の接続を意識し、連携した指導を目指している。今回の取組では、算数科の「数量関係」、その中でも比例と反比例に関わる領域について、学習の系統図を小・中学校で協力して作成し全職員に周知を行った。また、9年間の指導の最終的な児童の姿を「15歳の姿」として明記することで、目標に向けて統一した指導が進められるものと考えている。</p> <p>② 学力向上年間計画、学習常規、家庭学習のきまりなどの共有と連携した指導</p> <p>・学校がチームとして学力向上に取り組み、更に9年間を見越した指導を行うことができるよう学力向上年間計画を作成し、学校間で交流を行っている。また、学習常規は3年前から、家庭学習のきまりは2年前から中学校と接続を図っている。</p>

全国学力学習状況調査では、小学校・中学校ともに「関数」「数量についての知識・理解」の部分のポイントが全国と比較すると低い状況である。基礎基本は定着しているものの、関数の意味を理解していない状況である。

また、本単元を実施する前に小学校の学習内容であるレディネステストを行った。その結果、次の点が学習内容の定着が見られない部分だった。

- | |
|--|
| <p>「比例、反比例の式の表し方」
 「比例、反比例のグラフ」
 「比例、反比例の特徴」</p> |
|--|

そこで、本授業では、「自力解決とグループ解決」「グループでの反転学習」を取り入れ、生徒自身が学びに向かう姿勢を育成し、主体的に学習に取り組めるよう授業を構築した。

4. 単元の指導計画 「第4章 比例と反比例」 (19時間構成)

節	項	時数	目標	学習内容
1節	① 関数	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 変数・関数の意味を理解する。 ○ 事象の中にある関数の関係を見出すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 変数の意味 ○ 関数の意味 ○ 関数であることがらを「～は…の関数である」という言い方で表すこと ○ あることがらが関数であるかどうかを判断すること ○ 関数の関係を式や矢印と言葉で表すこと
2節	① 比例する量	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 比例の意味を理解し、比例する事象を式に表したり、比例の式を使って具体的な場面を考察したりすることができる。 ○ 変域の意味を理解し、変域を不等号を使って表すことができる。 ○ 変数や比例定数が負になった場合でも、同じような関係にとらえることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 比例の意味 ○ 定数、比例定数の意味 ○ 比例することがらの変化の特徴を調べること ○ 比例する2つの量の関係を式で表すこと ○ 変域の意味 ○ 変域を不等号を使って表すこと ○ xの変域や比例定数が負になる比例について、値の変化の様子を調べること

	② 比例のグラフ	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平面上の点の座標の意味を理解し、点を座標を用いて表すことができる。 ○ $y = ax$ のグラフをかくことができ、グラフの特徴を調べることができる。 ○ x の増加量とそれに対応する y の増加量との関係を、グラフを用いて調べることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 負の数も範囲に入れた点の位置の決め方 ○ 座標に関する用語の意味 ○ 平面上の点の表し方 ○ 平面上の点の座標をいうこと ○ 座標のあたえられた点を平面上にとること ○ $y = ax$ のグラフがどんなグラフになるかを多くの点をとって調べること ○ $y = ax$ のグラフをかくこと ○ $y = ax$ の値の変化を調べること ○ $y = ax$ のグラフの特徴を調べること
	③ 比例の式を求めること	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1組の x, y の値から比例の式を求めることができる。 ○ 具体的な問題を、比例の式を求めて解決することができる。 ○ 比例を表すグラフから、比例の式を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1組の x, y の値から比例の式を求めること ○ 具体的な問題を、比例の式を求めて解決すること ○ 比例を表すグラフから、比例の式を求めること
3節 反比例	① 反比例する量	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 反比例の意味を理解し、反比例する量を式に表したり、反比例の式を使って具体的な場面を考察したりすることができる。 ○ 変数や比例定数が負になった場合でも、同じような関係ととらえることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 長方形の2辺と面積や周の長さの関係や変化の特徴を調べること ○ 反比例の意味 ○ 反比例の比例定数の意味 ○ 反比例する2つの量の関係を式で表すこと ○ x の変域や比例定数が負になる反比例について、値の変化の様子を調べる
	② 反比例のグラフ	3 本時 2/3	<ul style="list-style-type: none"> ○ $y = \frac{a}{x}$ のグラフをかくことができ、グラフの特徴を調べることができる。 ○ 1組の x, y の値や反比例を表すグラフから、反比例の式を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ $y = \frac{a}{x}$ のグラフがどんなグラフになるかを、多くの点をとって調べること ○ $y = \frac{a}{x}$ のグラフをかくこと ○ $y = \frac{a}{x}$ のグラフの特徴を調べること ○ 1組の x, y の値から反比例の式を求めること ○ 反比例を表すグラフから、反比例の式を求めること
4節 比例と反比例の利用	① 比例と反比例の利用	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 図形の面積や周について、比例、反比例の関係を調べることができる。 ○ 比例や反比例の見方や考え方、グラフを利用して、具体的な場面を解くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 図形の面積や周について、比例、反比例の関係を調べること ○ 具体的な問題を、比例や反比例の見方や考え方を利用して解決すること ○ 比例のグラフをよみとって、具体的な問題を解決すること

5. 評価規準

節	項	数学への 関心・意欲・態度	数学的な 見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての 知識・理解
1節 関数	① 関数	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関数の関係について関心をもち、具体的な事象のなかの2つの量の関数関係を観察、操作や実験を通して調べ、値の変化や対応の様子をとらえようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 具体的な事象のなかにある2つの量の関係を、表や式に表し、変化や対応をとらえることができる。 ○ 文字を変数として扱うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関数の関係を表や式、\rightarrowと言葉などで表すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事象のなかには関数の関係になるものがあることを理解している。 ○ 関数の意味を理解している。 ○ 変数の意味を理解している。

2 節 比例	① 比例する量	<ul style="list-style-type: none"> ○ 比例の関係に関心をもち、具体的な事象のなかから比例の関係としてとらえられる2つの数量を見だし、式で表そうとしている。 ○ 比例の特徴に関心をもち、表や式を利用して、その特徴を調べようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 具体的な事象のなかの2つの数量の関係を、値の変化や対応の様子に着目して調べ、比例の関係にある2つの数量を見いだすことができる。 ○ 比例の特徴を、表や式を利用して見いだすことができる。 ○ 変数や比例定数が負の数になる場合の特徴を調べ、正の場合と同じ関係であるととらえることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 比例の関係を表や式に表すことができる。 ○ 事象の変域を求め、不等号を使って表すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事象のなかには比例の関係になるものがあることを理解している。 ○ 比例の意味、比例定数の意味を理解している。 ○ 変域の意味を理解している。 ○ 値の変化や対応の様子について、比例の特徴を理解している。
	② 比例のグラフ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平面上の点の位置を表す方法に関心をもち、身のまわりのことがらと関連づけて考えようとしている。 ○ 比例のグラフについて関心をもち、プロットする点を増やしてどのような形になるかを考えようとしている。 ○ 比例の特徴に関心をもち、グラフを利用して、その特徴を調べようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平面上の点の位置を表し方を考えることができる。 ○ グラフを、式をみだす点の集合であるとすることができる。 ○ 比例の特徴をグラフを利用して見いだすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平面上の点の座標を求めたり、2つの数の組を平面上の点で表したりすることができる。 ○ 比例のグラフをかくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 座標や座標に関する用語の意味を理解している。 ○ 比例のグラフのかき方を理解している。 ○ 比例のグラフの特徴を理解している。
	③ 比例の式を求めること	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1組の x、y の値やグラフから比例の式を求めることに関心をもち、求める方法を考えたり、求めたりしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1組の x、y の値やグラフから比例の式を求める方法を考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1組の x、y の値やグラフから比例の式を求めることができる。 ○ グラフから比例の式を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 比例であることがわかれば、1組の値から式を求められることを理解している。
3 節 反比例	① 反比例する量	<ul style="list-style-type: none"> ○ 反比例の関係に関心をもち、具体的な事象のなかから反比例の関係としてとらえられる2つの数量を見だし、式で表そうとしている。 ○ 反比例の特徴に関心をもち、表や式を利用して、その特徴を調べようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 具体的な事象のなかの2つの数量の関係を、値の変化や対応の様子に着目して調べ、反比例の関係にある2つの数量を見いだすことができる。 ○ 反比例の特徴を、表や式を利用して見いだすことができる。 ○ 変数や比例定数が負の数になる場合の特徴を調べ、正の場合と同じ関係であるととらえることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 反比例の関係を表や式に表すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事象のなかには反比例の関係になるものがあることを理解している。 ○ 反比例の意味、比例定数の意味を理解している。 ○ 値の変化や対応の様子について、反比例の特徴を理解している。
	② 反比例のグラフ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 反比例のグラフについての関心をもち、プロットする点を増やしてどのような形になるかを考えようとしている。 ○ 反比例の特徴に関心をもち、グラフを利用して、その特徴を調べようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 反比例の特徴を、グラフを利用して見いだすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 反比例のグラフをかくことができる。 ○ 1組の x、y の値やグラフから反比例の式を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 反比例のグラフのかき方を理解している。 ○ 反比例のグラフは双曲線とよばれることや、その特徴を理解している。
4 節 比例と反比例の利用	① 比例と反比例の利用	<ul style="list-style-type: none"> ○ 長方形や正方形の面積や周の長さに関心をもち、縦・横の長さや面積や周との関係を調べようとしている。 ○ 比例や反比例の関係やグラフを利用することに関心をもち、具体的な事象に関する問題を、比例や反比例の見方、考え方やグラフを利用して解決しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ $A \times B = C$ で表される関係について、その中の2つの数量の関係を比例、反比例であるかどうかを判断し、それを説明することができる。 ○ 2つの数量の関係を比例、反比例とみなして、変化の様子を調べたり、予測したりすることを通して、比例、反比例を利用することのよさを見いだすことができる。 ○ グラフを利用して問題を解決することを通して、グラフのよさを見いだすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 数量の間の関係が比例か反比例か、あるいはどちらでもないかを調べることができる。 ○ 具体的な事象に関する問題を、比例や反比例の見方、考え方やグラフを利用して、解決することができる。 ○ グラフから、具体的な数量をよみとり、問題を解決することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ $A \times B = C$ で表される関係では、一定にする数量によって、比例の関係になったり、反比例の関係になったりすることを理解している。 ○ 比例、反比例の見方や考え方を利用して問題解決できる場面があることを理解している。 ○ グラフからいろいろな数量をよみとることができることを理解している。

6. 本時の学習計画

(1) 目標

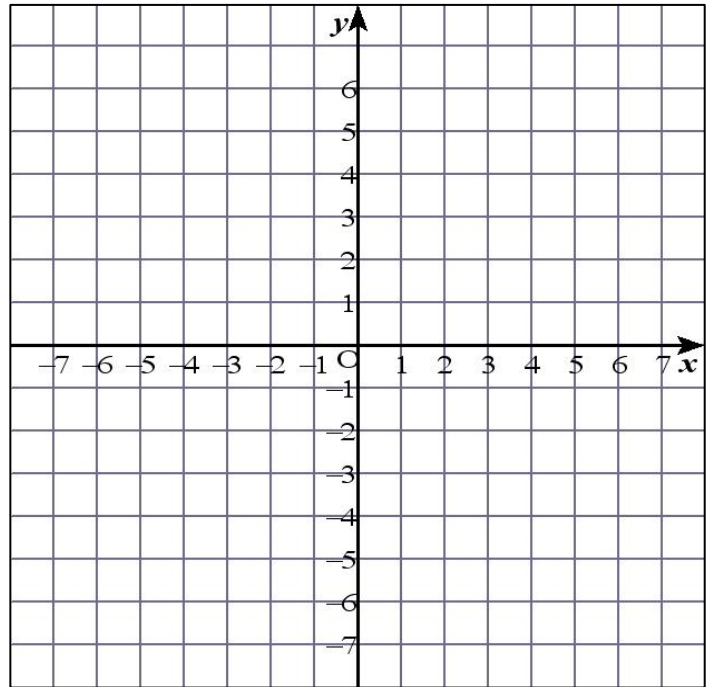
- 反比例のグラフの特徴に関心を持ち、意欲的に追究しようとする。(関心・意欲・態度)

(2) 展開

生徒の学習活動・内容(形態)	教師の働きかけ	○ 評価規準 □ 評価方法 (☆努力を要する生徒)
<p>【問題】 反比例 $y = \frac{a}{x}$ のグラフをかこう。</p> <p>○ワークシートに $y = \frac{6}{x}$ のグラフをかく(個人)</p> <p>○予習発表 ・反比例のグラフのかき方について、グループ発表を行い、$y = \frac{6}{x}$ を確認。(グループ)</p> <p>確認したグループからワークシートに $y = -\frac{6}{x}$ をかく。</p>	<p>○グループリーダーに声かけを行い、できてない生徒の確認を促す。</p> <p>○グループの話し合い活動の様子を確認する。</p>	<p>☆グループ活動の様子をみて、数学リーダーにアドバイスしつつ、グラフのかき方をサポートする。</p>
<p>【学習課題】 反比例のグラフの特徴を調べよう。</p> <p>○反比例の特徴についてグループで確認し、発表する。 (グループ→全体)</p>		<p>反比例のグラフの特徴[考えられる特徴] ・曲線&カーブした線など ・0を通らない (点対称になっている。) ・負の数と正の数では反対になっている。 ☆座標軸と交わらない。 ☆xが増加するとyは減少 ☆xが増加するとyは増加</p>
<p>【発問1】 反比例のグラフを伸ばした先はなるだろうか。</p> <p>○ グラフを延長した場合どのようなようになるかグループで予想する。</p> <p>○ ICT を活用し、グラフを延長した場合を確認する。</p>	<p>OTVを使い、グラフを確認する。</p>	<p>○反比例のグラフの延長した部分について追及している。(関)</p> <p>□プリント・発表</p>
<p>【発問2】 なぜ、座標軸と交わらないのか考えよう。</p> <p>○ グループで話し合い、グラフが交わらない理由を考え、発表する。</p>	<p>○グループの話し合い活動の様子を確認する。</p>	<p>☆グループ活動の話し合いに参加しているか確認する。</p>
<p>【まとめ】 反比例のグラフの特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なめらかな曲線で反比例のグラフを双曲線という。 ・x軸とy軸とは交わらない。また、0を通らないグラフになる。 <p>○ 次回の予習者を確認。</p> <p>○ 適用問題に取り組む。</p>		<p>○反比例の特徴をまとめている。(関)</p> <p>□プリント・発表</p>

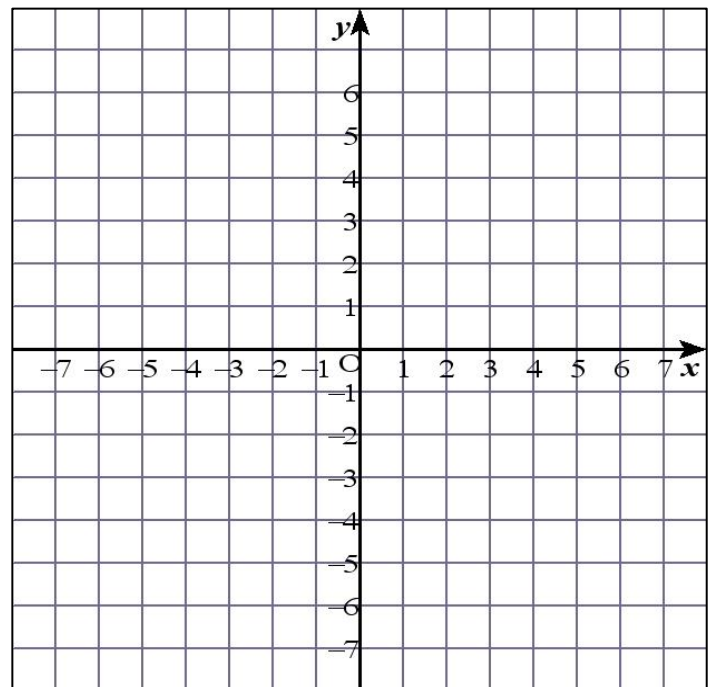
反比例のグラフをかこう

$$y = \frac{6}{x}$$



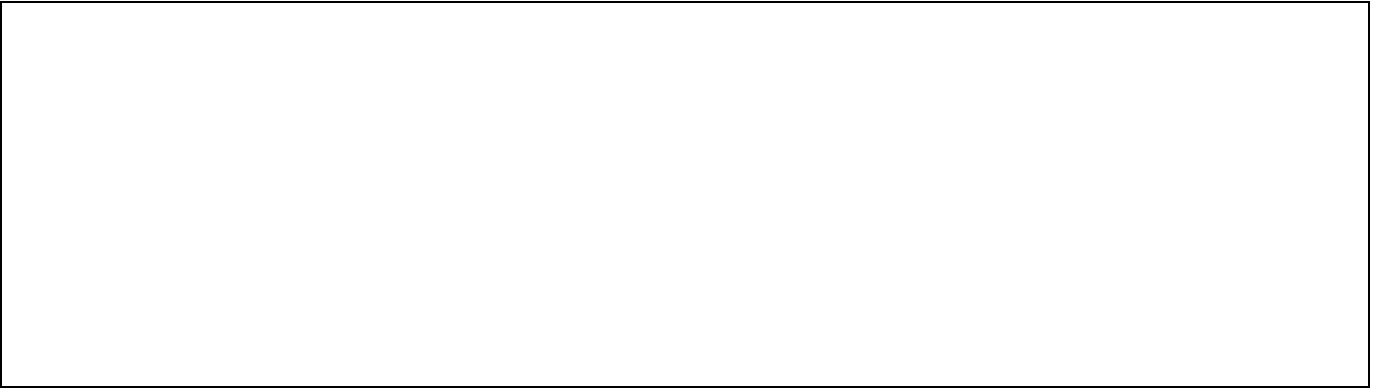
x	-6	-5	-4	-3	-2	-1	0	1	2	3	4	5	6
y													

$$y = -\frac{6}{x}$$

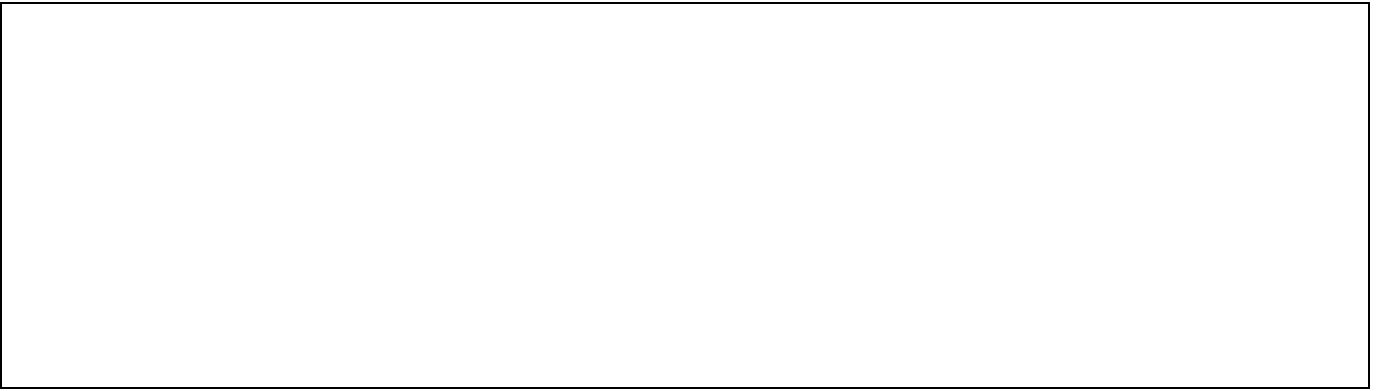


x	-6	-5	-4	-3	-2	-1	0	1	2	3	4	5	6
y													

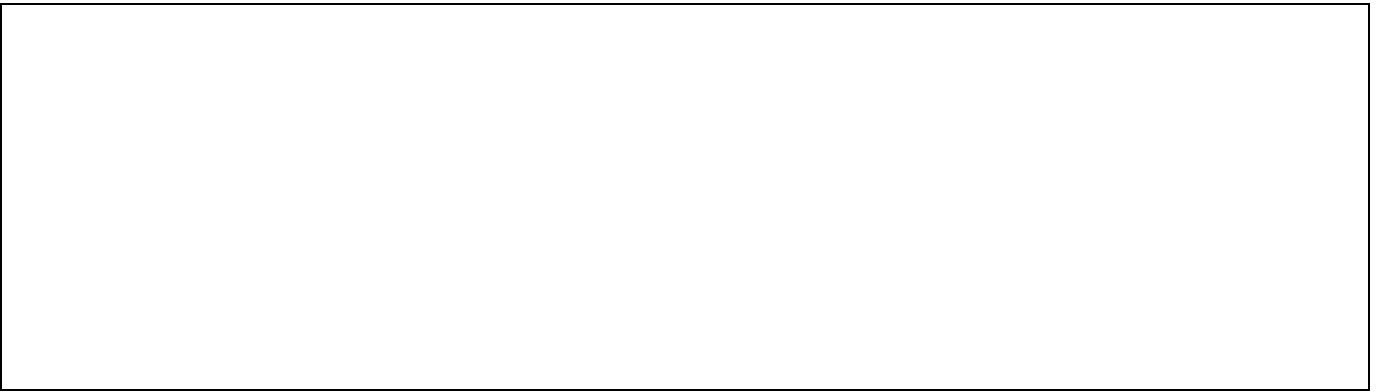
①



②



③



④まとめ



全国学力・学習状況調査の結果から、学力向上に向けての取組について成果と課題が明らかになった。北日吉小学校, 北中学校, それぞれの学校が抱える諸問題の解決に向けて、今年度は次の通り視点を設け学力向上に向けた取組を進めることとした。

取組 1 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善

北日吉小学校

○深い学びの実現に向けたための工夫

主体的な学びの実現のためには、課題を自分ごととしてとらえる必要があると考える。課題提示の仕方を工夫することで、より主体的な学びになるものと考えている。

また、対話的な学びには「自己との対話」「他者との対話」がある。「自己との対話」では、自力解決場面の時間の確保、解決に向けての支援の在り方について工夫を行う。「他者との対話」では、交流場面の効果的な設定について工夫を行うことで、自己の考えの変容に気付かせ、より深い学びの獲得を目指している。

○資質・能力を育むための少人数指導

本校では、4・5年生の算数科の学習において、4月より少人数指導を行っている。1学級を2分割し習熟度別の指導を行うことで、個に応じた支援がより充実し、資質・能力の育成を図ることができると考えている。

また、他の学年においてもTTでの指導を行い全校体制での指導の充実を図り、学力向上に向けての学校ぐるみの取組を進めている。

北中学校

○学び合いのコーディネート

昨年度までは、課題提示・まとめや振り返りを中心に一時間の授業について考えてきた。課題提示・まとめや振り返り、話し合い活動もおおむね各教科で実践できている。

主体的・対話的で深い学びを実現するためには、生徒自身が学びに向かう主体的な姿勢を育成する必要がある。そこで、教師が主体となる授業を実践するのではなく、生徒が主体的に活動できるような授業を考えていくことが重要である。そのために、自力解決を踏まえた小集団を設定するなど学び合いが活性化するような授業づくりを行っている。また、討論や意見交換など対話を重視した学び合いを深め、視覚的に表現できるようにする。これらの活動を各教科で実践し、生徒が互いの意見や考えを比較・検討する活動を取り入れることで学びが深まるようになると考えている。

取組 2 小・中学校接続を意識した指導

○学習の系統図の共有と「15歳の姿」の設定（資質・能力の明確化）

北日吉小学校と北中学校では、小・中学校接続を意識し、連携した指導を目指している。今回の取組では、算数科の「数量関係」、その中でも比例と反比例に関わる領域について、学習の系統図を小・中学校で協力して作成し全職員に周知を行った。また、9年間の指導の最終的な児童の姿を「15歳の姿」として明記することで、目標に向けて統一した指導が進められるものと考えている。

○学力向上年間計画、学習常規、家庭学習のきまりなどの共有と連携した指導

学校がチームとして学力向上に取り組み、更に9年間を見越した指導を行うことができるよう学力向上年間計画を作成し、学校間で交流を行っている。また、学習常規は3年前から、家庭学習のきまりは2年前から中学校と接続を図っている。

北中学校 学力向上 年間計画

	担当	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
行事			修学旅行	体育大会	中体連	宿泊研修・自主研修	北峰祭					高専・私立一般入試	公立一般入試	
		全国学力・学習状況調査	結果分析開始	改善策の検討 期末テスト	結果の全体周知 チャレンジテスト 1学期末問題 授業交流	夏休み明け実力テスト チャレンジテスト 1学期末サポート問題	Aテスト 中間テスト	Bテスト	Cテスト 期末テスト	チャレンジテスト 2学期末問題	チャレンジテスト 2学期サポート問題 3年学年末テスト	学力学習状況調査 過去問題への取組 学年末テスト	CRT実施・検証・改善 過去問題への取組	
学校マネジメント	全体計画(グランドデザインの作成)	教頭	学校経営要項 経営方針の周知	学力向上年間計画作成開始	年間計画決定 各部計画実施	各部の計画進行状況 点検						反省	年間計画見直し	
	検証改善サイクルの実質化、迅速化(PDCAサイクル)	教頭		計画 各部との調整	実行 各部計画実施							評価	改善	
人材育成	管理職による日常的な巡回指導	校長 教頭	巡回指導による各クラスへの支援											
各学年の学習内容の確実な定着を図るための 教育課程・学習指導・指導方法	学習規律	教務	学習のきまり揭示	各クラスでの実践・検証							反省アンケート配付	改善案揭示	新学習スタンダード決定	
	家庭学習	教務	家庭学習のしおり 各家庭への配付・周知	家庭学習ノート 各学年・学習委員会の取組				委員会による手本紹介					家庭学習のきまり 反省と改善 懇談会での意見集約	
	年間指導計画	教務	重点指導指導項目	実施・検証								反省を受け指導計画の改善	次年度指導計画の作成	
	学習サポート	教務				サポート実施 チャレンジテスト過去問題の実施		放課後自習室開放	放課後自習室開放	放課後自習室開放	サポート実施 チャレンジテスト過去問題の実施	サポート実施 チャレンジテスト過去問題の実施 放課後自習室開放	放課後自習室開放	
	数学科における少人数指導 IT指導の実施	教務	1～3年生における 複数指導				習熟度別授業実施				習熟度別授業改善			
	授業改善	教務	主体的・対話的で深い学び 追究した授業づくり 学びのコーディネート スコラ手帳・家庭学習の充実			授業の相互参観 授業アンケート実施				校内研究特設授業 「社会」	授業の相互参観 授業アンケート実施			
	読書活動の充実	教務	朝読書											
	スコラ手帳の活用	主幹	啓発通信配布 スコラ手帳活用指導 学年集会(1年)		スコラ効果測定 テスト活用			テスト活用	効果測定フィードバック テスト活用 校内スコラ甲子園募集	分析・学級活用 テスト活用 スコラ甲子園応募		テスト活用	テスト活用	
	体力向上	体育科			体力テスト実施	集計・分析								
	生活のきまり 教育相談	生指	校内生活のきまり周知徹底	教育相談(1年)		教育相談(2・3年)			教育相談(全学年)					
小中接続 (算数・数学科中心)	小林	学力向上年間計画 作成開始(小中接続 プラン)	学力向上プラン 作成 計画実施			学力向上プラン(2 学期以降分)作成 計画実施			学プロ公開授業 「数学」予定 小学校「算数」予定		家庭学習の決まり 学習スタンダード 反省	家庭学習の決まり 学習スタンダード 小中接続		
地域との連携	コミュニティースクール	教頭												
	参観日・地域公開日	教務	4月12日(木)PTA総 会・学級懇談会・参 観日			7月13日(金) 参観日・保護者懇談 会			保健体育 ダンス発表会	11月2日(金) 地域学習参観(道徳 公開)	1月31日(木) 新入生保護者説明 会		3月6日(木) 新入生体験入学	

I 研究の概要

1 研究主題（3年計画 1年次）

研究主題
正しい判断力を身に付け、互いに認め合い、豊かな人間性溢れる生徒の育成
～生徒が主体的に考え、議論する道徳の授業の工夫～

2 研究仮説

- (1) 生徒が主体的に考え、議論する活動を工夫することによって、自ら進んで学び、自らの学びを活かし、豊かな人間性を培うことができるだろう。
- (2) 生徒が変容を評価されることによって、正しい判断力を身に付け、よりよい生き方を目指そうとする意欲を高めることができるだろう。（次年度）
- (3) 支持的風土のある学級をつくることによって、自分の思いを自由に表現し、互いに認め合い、助け合うことができるようになるだろう。

3 主題設定の理由

今年度、本校は、西中、潮見中、宇賀の浦中が統合し、青柳中学校として開校した。本校生徒は、純朴で素直な生徒が多い反面、精神的な逞しさや、自ら考えて行動する姿勢が弱く、受動的である。更に、基本的生活習慣の定着が不十分なことや自己肯定感の不足から思いやりや自制心にかげやすい傾向もみられる。統合1年目である今年度は、生徒達が、互いに認め合い、助け合えるような雰囲気、絶対にいじめを許さない雰囲気を作ることが必要である。また、来年度の中学校における「特別の教科 道徳」の全面実施に向け、全職員が道徳についての研修を深めることが喫緊の課題である。そこで、生徒が主体的に考え、議論する道徳の授業を通して、正しい判断力を身に付け、互いに認め合い、豊かな人間性溢れる生徒を育成できると考え、本研究主題を設定した。

4 研究内容

- | | |
|-------------------|--------------|
| (1) 考え、議論する内容の工夫 | (2) 発問の工夫 |
| (3) 板書の工夫 | (4) 道徳性実態調査 |
| (5) 支持的風土のある学級づくり | (6) 学級力アンケート |
| (7) 一人一授業 | (8) 特設授業 |

II 具体的な取り組み

1 1学期末に「道徳意識調査」を実施。

- ・「自分には、よいところがあると思う。」の評価が低く、自分によいところがあると思っていない生徒＝「自己肯定感をもてない生徒」が33%もいることがわかった。
- ・道徳の授業において、内容項目 A-(3)「向上心、個性の伸長」に力を入れて指導することにした。

2 1学期末に「学級力アンケート」を実施。

- ・[役割]係や当番の活動に責任をもって取り組んでいる、[聴き方]話し手の言いたいことをわかろうとして聴いている、[感謝]「ありがとう」「ごめんね」を伝え合っている、[協力]友達と一緒に活動を盛り上げている、[整理整頓]教室の学習・生活環境を整え、清潔に心がけている、の自己評価が高く、[改善]自分たちの学習や生活をよくするための話し合いや活動をしている、[主体性]自分から進んで心地よい環境をつくろうとしている、[時間管理]時間の見通しをもって行動できている、[合意形成]話し合いの時、考えや意見を出し合えるようにしている、[認め合い]友だちのよいところやがんばっているところを伝え合っている、の評価が低かった。
- ・2学期の取り組みとして、旅行的行事、事後学習で、見通しをもって活動させる。学活などの時間に、学級の課題についての話し合いを行うことにした。
- ・道徳科においては、内容項目 A-(1)「自主、自律、自由と責任」、C-(15)「よりよい学校生活、集団生活の充実」、B-(6)「思いやり、感謝」、B-(8)「友情、信頼」、B-(9)「相互理解、寛容」に力を入れて指導することにした。

3 一人一授業

- (1) 道徳、または道徳的な内容を取り入れた教科で行う。
- (2) 1ブロック4人編成で、管理職も含め全員が2学期中に公開授業を行う。
- (3) 事後研修は行わず、参観者は授業参観チェックシートに記入し、提出する。

授業参観チェックシート (教科編) チーム齊備で
取り組む校内研修

9月4日(火) 第4 教時 教科名 1年D組 美術

授業者 _____ 参観者 _____

チェック項目	「O」
① 生徒が学習に取り組みやよい教室環境が整えられている。	<input type="checkbox"/>
② 本時の課題を分かりやすく示している。	<input type="checkbox"/>
③ 生徒全員に伝わる分かりやすい指示をしている。	<input type="checkbox"/>
④ 授業の流れが一目で分かる板書をしている。	<input type="checkbox"/>
⑤ 目標を達成するための学習活動に取り組ませている。	<input type="checkbox"/>
⑥ 生徒の発言内容などに対し、共感的な関わりを大切にしている。	<input type="checkbox"/>
⑦ 生徒のノート記述や発言などから、つまづきなどをとらえ、適切な指導を行っている。	<input type="checkbox"/>
⑧ 本時の課題に正対するまごころを行っている。	<input type="checkbox"/>
⑨ 本時の学習内容の定着を図る学習活動や問題を位置づけている。	<input type="checkbox"/>
⑩ 計画した時間を余したり、短足りすることなく授業を終えている。	<input type="checkbox"/>

授業づくりの視点 (工夫点) について

成果・工夫が見られる点	課題・改善を要する点
<p>事前の準備が十分で、授業の進行がスムーズに進んでいくことが見えた。</p>	<p>内容を扱っていきながら、生徒の理解を促す工夫がもう少しあったらいいと思う。</p>
その他	
<p>授業の進行がスムーズで、生徒の理解が深まることが見えた。</p>	<p>生徒の発言に対して、もう少し共感的な関わりを大切にしたいと思う。</p>

① 授業の進め方がよく、生徒の理解が深まることが見えた。
② 相手の思いもよく、授業の進行がスムーズに進んでいくことが見えた。
③ 一人ひとりがしっかりと授業に取り組んでいる。

授業参観チェックシート (道徳編) チーム齊備で
取り組む校内研修

10月10日(水) 第5 教時 教科名 1年 道徳 B

授業者 _____ 参観者 _____

チェック項目	「O」
① 主題に対する理解意欲や教材の内容への興味・関心をもちあせている。	<input type="checkbox"/>
② 生徒が理解できるような教材提示の工夫がされている。	<input type="checkbox"/>
③ 考えの多様性や広さのある発問になっている。	<input type="checkbox"/>
④ 生徒は自分の考えをもちあせている。	<input type="checkbox"/>
⑤ 生徒一人ひとりの考え方や感じ方を交流する場がある。	<input type="checkbox"/>
⑥ 話し合いや表現活動を行う場面で、活動の意欲を明確にしている。	<input type="checkbox"/>
⑦ 生徒の発言に対し、共感的な関わりを大切に、適切に返りよがたり、つないでいる。	<input type="checkbox"/>
⑧ 思考を深める手助けとなる効果的な発問を行っている。	<input type="checkbox"/>
⑨ 生徒に目標設定や学習意欲をもちあせて、望ましい行動を促しているように感じている。	<input type="checkbox"/>
⑩ 十分に学習意欲をもちあせて、望ましい行動を促しているように感じている。	<input type="checkbox"/>

授業づくりの視点 (工夫点) について

成果・工夫が見られる点	課題・改善を要する点
<p>生徒の発言に対して、話し合いの場を設けて、生徒の考えを深める工夫がされている。</p>	<p>生徒の発言に対して、もう少し共感的な関わりを大切にしたいと思う。</p>
その他	
<p>授業の進行がスムーズで、生徒の理解が深まることが見えた。</p>	<p>生徒の発言に対して、もう少し共感的な関わりを大切にしたいと思う。</p>

① 話し合いの場を設けて、生徒の考えを深める工夫がされている。
② 相手の思いもよく、授業の進行がスムーズに進んでいくことが見えた。
③ 一人ひとりがしっかりと授業に取り組んでいる。

- (4) 授業参観チェックシートに記入された成果や課題、感想などは、参観していない教員にもわかるように、研究通信を通して伝える。

研究通信 チーム齊備で
取り組む校内研修

今年度は参観者が参観した授業の授業参観シート、授業参観シートを、2学期中に行う授業参観シートに記入していただき、授業参観シートと一緒に提出していただきます。


◎授業参観チェックシートより◎

【4. 24 2年生 道徳 山口新太郎先生】

- 1人1人しっかりと発言させる仕組みが、授業参観シートとして記入することができ、それが授業参観シートに記入されて、とても素晴らしい授業参観シートだと思いました。
- 生徒の発言に対して、わかりやすく説明することができ、理解し、納得するようになっていました。
- 生徒の発言に対して、わかりやすく説明することができ、理解し、納得するようになっていました。
- 生徒の発言に対して、わかりやすく説明することができ、理解し、納得するようになっていました。



【4. 10 美術 横井先生】

- 授業参観シートに記入された成果や課題、感想などは、参観していない教員にもわかるように、研究通信を通して伝える。
- 授業参観シートに記入された成果や課題、感想などは、参観していない教員にもわかるように、研究通信を通して伝える。
- 授業参観シートに記入された成果や課題、感想などは、参観していない教員にもわかるように、研究通信を通して伝える。



【4. 10 2A道徳 横井先生】

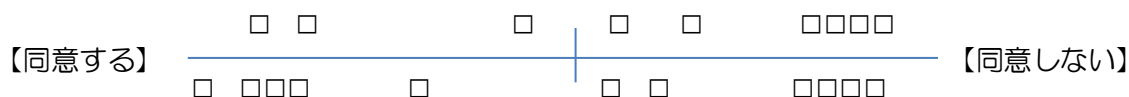
- 参観者が参観した授業の授業参観シート、授業参観シートを、2学期中に行う授業参観シートに記入していただき、授業参観シートと一緒に提出していただきます。
- 参観者が参観した授業の授業参観シート、授業参観シートを、2学期中に行う授業参観シートに記入していただき、授業参観シートと一緒に提出していただきます。
- 参観者が参観した授業の授業参観シート、授業参観シートを、2学期中に行う授業参観シートに記入していただき、授業参観シートと一緒に提出していただきます。

◎今年度一人一授業参観された後、「授業参観チェックシート」を記入していただき、授業参観シートと一緒に提出していただきます。授業参観シートに記入された成果や課題、感想などは、参観していない教員にもわかるように、研究通信を通して伝える。

4 視察研修

- 10月中旬、埼玉県川口市立芝中学校 若林尚子教諭の道徳の授業「命の判断（3年生）」を参観。
- グループ内でそれぞれの意見と理由を交流する際、「その中で一番納得した理由は？」という投げかけをしていた。その後、全体交流で各グループの生徒に、グループのみんなが一番納得した理由を言わせることで、自分の意見でなくても、グループの人の意見をしっかりと聞いて、それを全体に伝えることができていた。生徒達が自分たちの考えを吟味して、よりよい納得ができるようにさせていた。
 - ワークシートに自分の意見を書かせたのは、最初の「同意する」「同意しない」と理由だけで、その後は話し合いのみであった。最初の意見と理由を書いた時点で自分の考えは決まっていた、そこから他の人の意見を聞いていく中で、自分の意見が変化することもあり、特に問題解決型の授業の場合は、あまり書かせないようにしているとのことであった。中には答えられない生徒もいたが、心の中で葛藤してうまく伝えることができないだけで、自分の考えがないというわけではないのが伝わってきた。
 - 下記のような板書をほとんどしないのは、この作業に時間をかけたくないのと、中央部分（グレーゾーン）にネームカードを貼るのはずるいから。また、同意に賛成・反対が何人いるかということが最終的な目標ではなく、「命の大切さ」がわかることが目標であるから。



- 道徳の授業の「議論」とは、生徒一人ひとりがかつ価値観と価値観をすり合わせることで、新たな価値観を築き上げるものである。

5 特設授業

7月の道徳意識調査の結果を踏まえ、自己肯定感をもちたいということから、内容項目 A-(3) 「向上心、個性の伸長」で行うことにした。

(1) 授業の視点

- 生徒が自分事として捉えることができる発問の工夫
- 多面的・多角的に考えを拡充させる話し合いの形態・方法の工夫

(2) 成果と課題

- 生徒の関心に寄り添っている。
- 自分を見つめるよい機会になっていた。他の人から見た自分と対比させている点良かった。
- ワークシートが活動しやすく書きやすいものになっていた。
- 1時間の中に多くのことを詰め込みすぎてしまった。
- 話し合いに時間を十分とれるよう、操作を減らす必要があった。話し合いをする焦点を絞り切れていなかった。
- ある生徒の「短所ばかりが気になる」という発言から、中心発問にもっていけばスムーズにいったと思う。
- 1度の授業で生徒の価値観や考えが劇的に変化することは難しく、「向上心、個性の伸長」は特にそう思われる。道徳や特別活動、日常生活、様々な角度から迫っていく必要がある。



(3) 改善

- ①課題を踏まえ、内容項目「向上心、個性の伸長」は、道徳、特別活動で4時間かけて行う。また、特設授業の内容については、2時間に分ける。

1	道徳	主題名「向上心」 資料名「この人に学ぶ メッセージ 山中 伸弥」(私たちの道徳)
2	道徳	主題名「自分の長所を見つめる」 資料名「長所・短所」(生徒作文) 【本時案(改案)】
3	特別活動	「自分が知らない自分のよさを活かす」
4	特別活動	「クラスのなんでも No.1」

6 2学期末に「道徳意識調査」を実施

	質問項目	肯定的意見 (7月)%	肯定的意見 (12月)%
道徳の 時間	1 道徳の勉強は好きだ。	82.5	84.6
	2 道徳の授業では、自分の考えを伝えたり、ほかの人の考えを聞いたりしながら、自分のこと(生き方)についてよく考えている。	87.1	89.6
自尊感情	3 ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。	93.2	90.4
	4 自分には、よいところがあると思う。	66.8	66.9
夢・志	5 将来の夢や目標をもっている。	76.8	80.8
人間関係	6 人の気持ちが分かる人間になりたいと思う。	96.8	96.8
	7 いじめはどんな理由があっても、いけないことだと思う。	97.9	96.8
規範意識	8 学校の規則を守っている。	97.9	96.8
社会貢献	9 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。	75.7	72.2
郷土愛	10 郷土に誇りをもち、自分たちの生まれ育った地域に将来、貢献したいと思う。	75.7	79.7

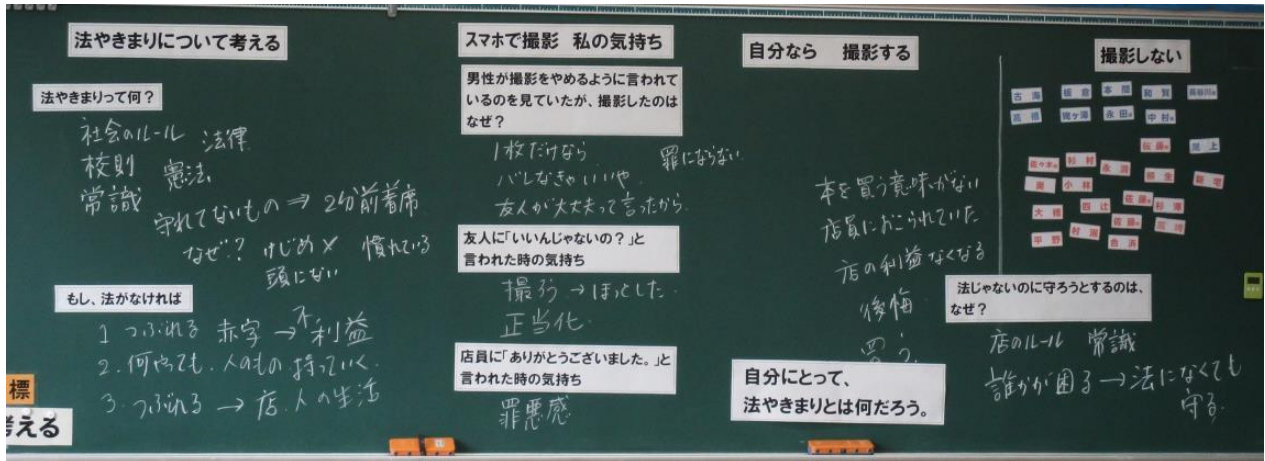
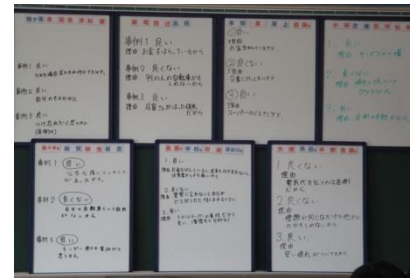
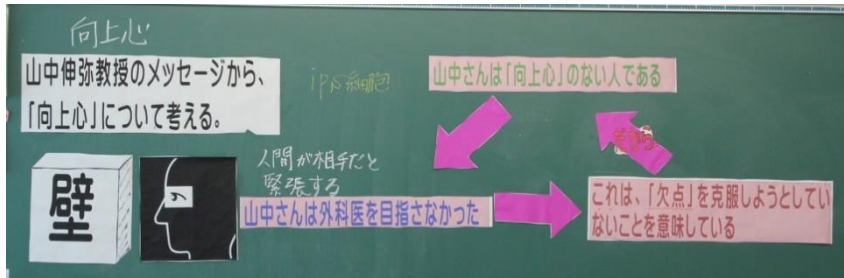
7 2学期末に「学級力アンケート」を実施

		質問項目	平均 (7月)	平均 (12月)
A「達成力」 目標をやり とげる力	1[目標達成]	みんなで決めた目標やめあてに力を合わせて取り組んでいる。	3.3	3.4
	2[改善]	自分たちの学習や生活をよりよくするための話し合いや活動をしている。	3.1	3.1
	3[役割]	係や当番の活動に責任をもって取り組んでいる。	3.5	3.6
B「自律力」 自らを律す る力	4[主体性]	自分から進んで心地よい環境をつくらうとしている。	3.2	3.3
	5[時間管理]	時間の見通しをもって行動ができています。	3.2	3.3
	6[けじめ]	場面に応じて気持ちの切り替えをしている。	3.3	3.4
C「対話力」 話をつなげ る力	7[聴き方]	話し手の言いたいことをわかろうとして聞いている。	3.5	3.5
	8[話し方]	友達の考えや意見につなげて話している。	3.3	3.4
	9[合意形成]	話し合いの時、考えや意見を出し合えるようにしている。	3.2	3.3
D「協調力」 友達を支え る力	10[支え合い]	学級での活動で、学び合いや助け合いをしている。	3.4	3.5
	11[感謝]	「ありがとう」「ごめんね」を伝え合っている。	3.6	3.7
	12[協力]	友達と一緒に活動を盛り上げている。	3.5	3.6
E「安心力」 安心を生む 力	13[認め合い]	友達のよいところやがんばっているところを伝え合っている。	3.2	3.3
	14[尊重]	友だちの心を傷つけることを言ったり、からかったりしない。	3.3	3.2
	15[平等]	誰とでも分け隔てなく、グループになったりすることができる。	3.2	3.4
F「規律力」 きまりを守 る力	16[学習規律]	学習きまりを理解し、しっかり守っている。	3.4	3.5
	17[整理整頓]	教室の学習・生活環境を整え、清潔に心がけている。	3.5	3.5
	18[正義]	善悪の判断をし、人の迷惑にならないように考えて行動できる。	3.4	3.5

Ⅲ 実践の成果と課題

1 成果

- ・「道徳の勉強が好きだ」「道徳の授業では、自分の考えを伝えたり、他の人の考えを聞いたりしながら、自分のこと(生き方)についてよく考えている」と答えた生徒が若干ではあるが増えた。
- ・アンケートの結果から、少しずつではあるが、支持的風土のある学級づくりができてきたと考える。また、生徒は、話し合いや議論の中で自分の考えをもち、多くの意見を聞くことで、様々な価値観があることを知ることができてきた。
- ・身近な題材、生徒が興味を示す題材を用いることで、生徒が自分事として捉えやすい。
- ・「…とは何か」「なぜ…なのか」など、生徒の思考が広がる発問や、効果的なタイミングでの問い返しが見られた。
- ・視聴覚機器や写真、説明のカードなど、様々な工夫が見られた。心情メーター、意見を表示するネームカード、グループの意見を記入するホワイトボードは効果的である。
- ・「良いー悪い」「賛成ー反対」など、どちらかを否定する話し合いではなく、最終的に本時のねらいの道徳的価値に迫るための話し合いにすることが大切である。
- ・机間巡視を有効に行い、様々な意見を拾い上げることで、多面的・多角的に捉えることができる。
- ・全体交流の場で個人の意見を言わせ、そこでもう意見が出なくなったら、グループで話し合わせることで、また新たに意見がでる。
- ・担任以外が行うローテーション授業は有効である。



2 課題

- 道徳意識調査の結果から、「自分にはよいところがある」と答えた生徒の数はほとんど変化がなかった。特設授業後の課題からも分かるように、道徳の授業のみならず、特別活動などと合わせて取り組んだり、行事や普通の学校生活の中で、一人ひとりの生徒が活躍できる場面を設定し、互いに認め合う活動を意識的に取り入れたりするなど、長期的に考えていく必要がある。
- 生徒の関心が低い題材や難しい題材を扱う際は、生徒がイメージしやすいように、写真や映像などを用いたり、状況を説明するカードなどを用いたりするとよい。
- 葛藤や、意見が分かれるような仕掛け（必然性につなげる工夫）が必要である。
- 思考や心の動きがわかるような板書が課題である。
- 「どうしてマナーを守らなければならないのか」など、当たり前と思うことを発問にすると良い。
- ひとつのことについて深く考える時間（個人、グループ）を保障することが大切である。
- 話し合いの視点を焦点化する必要がある。（議論するのは本時の道徳的価値についての内容に絞る）
- 話し合いのルールを定着させ、自分の考えをもち、他の意見と対比したり、受け入れたりする姿勢を習慣化する方策が必要である。また、自分の考えを、根拠をもって言えるようにさせることが大切である。（意見+理由）

IV 来年度に向けて

- 「特別の教科 道徳」が実施されるにあたり、教科書の教材研究を早急に行う。
- 評価について研修、評価方法を確立し、実施する。
- 評価に役立つような道徳ノートやワークシートの工夫について研修を行う。
- 考え、議論する活動、発問、板書の仕方についても、引き続き研修し、改善を図っていく。



函館市立青柳中学校 道徳科学習指導案

日 時：平成 30 年 11 月 9 日 (金)

生 徒：1 年 C 組 27 名

授業者：教諭 赤 坂 誠

1. 指導計画

(1) 主題名 自分の知らない自分 <内容項目 A-(3) 向上心, 個性の伸長>

(2) 主題設定の理由

中学生の時期は、自己理解が深まり、自分なりの在り方や生き方についての関心が高まっている生徒が多くなる。その一方で、自分の良さに気付くことができていない生徒も出てくる。

自分自身を見つめる活動や、学級の中でお互いに良いところを見つけ、伝え合う活動を取り入れることで、自分自身の長所を知ることができ、自己の向上に繋がると考える。自分では気付いていない良さを、他の生徒から伝えてもらう活動を行うことで、自己肯定感だけでなく、自己有用感をもつことにも繋がると考える。

(3) 生徒の実態

明るく元気な生徒が多く、何事にも一生懸命に取り組むが、幼く落ち着きがない言動も見られる。男女分け隔てなく概ね良好な人間関係を築けていて、体育祭や文化祭などの学校行事などを通して、様々な級友の良いところに気付いたり、認めたりすることができているが、そのことを本人に直接伝えることまではできていない。

学級全体として、授業に対して真剣に取り組もうとする雰囲気があるが、全体の場面で意欲的に発言できる生徒が限られている。グループ内での発言を活発に行うことで、自信をもち、多くの生徒が全体で発表できるようにしたい。

1 学期末に行ったアンケートでは、自己肯定感に関わる質問項目において、学級だけでなく、全校的に、他の項目と比べて低い数値を示していることから、自己肯定感をもてない生徒が 4 割程度いることがわかる。本時の学習を通して、自己肯定感や自己有用感をもつことができ、自分自身の個性を今後の生活に活かしていこうとする意欲をもたせたい。

アンケート	道徳意識調査			道徳に関わるアンケート		
項目	『自分には良いところがあると思う』			『自分の個性を知り、良さを伸ばしている』		
回答 内訳	回答	学級 26	全校 280	回答	学級 24	全校 279
	そう思う	4 人 [15.4%]	77 人 [27.5%]	当てはまる	4 人 [16.7%]	61 人 [21.9%]
	どちらかといえば そう思う	12 人 [46.2%]	110 人 [39.3%]	どちらかといえば 当てはまる	10 人 [41.7%]	126 人 [45.2%]
	どちらかといえば そう思わない	9 人 [34.6%]	65 人 [23.2%]	どちらかといえば 当てはまらない	8 人 [33.3%]	76 人 [27.2%]
	そう思わない	1 人 [3.8%]	28 人 [10.0%]	当てはまらない	2 人 [8.3%]	12 人 [4.3%]

(4) 目標

- 自分の長所や個性を理解するために、他者からの意見や個人の振り返りをもとに、自分を見つめ直すことが大切であることに気付く。
- 自ら意識して自分の良さを見つけ、伸ばしていこうとする意欲を育てる。

2. 本校の研究主題との関わり

【研究主題】正しい判断力を身に付け、互いに認め合い、豊かな人間性溢れる生徒の育成
～生徒が主体的に考え、議論する道徳の授業の工夫～

【研究内容】

・考え、議論する活動の工夫 ・発問の工夫 ・板書の工夫 ・支持的風土のある学級づくり

【授業づくりの視点（多様な見方・考え方に触れ、自らの価値観を問い直すための話し合いの工夫）】

[視点①]生徒が自分事として捉えることができる発問の工夫

[視点②]多面的・多角的に考えることができる発問の工夫

[視点③]多面的・多角的に考えを拡充させる話し合いの形態・方法の工夫

【本時との関わり】

視点①	自分の経験を振り返り、自分事として捉えられるような発問
視点②	作文や友達の意見を聞き、自分自身の個性や自分の考え方を見つめ直すことができるような発問
視点③	ジョハリの窓の考え方を元にした活動を通して、「自分が気付けていない自分自身の良さ」や「他者から見た良さ」に気付けるような話し合い活動

3. 本時の指導

(1) 本時のねらい

自分の長所や個性を理解するためには、周囲の人からの意見や個人の振り返りをもとに自分を見つめることが大切であることに気付き、自ら意識して自分の良さを見つけ、伸ばしていこうとする意欲を育てる。

(2) 本時の展開

	学習活動と内容 ・生徒の反応 ○発問◎中心発問	◇指導上の留意点 ◆評価
導入	1. 自分自身を振り返る。 <input type="checkbox"/> ワークシート①『私は_____人です』に当てはまる言葉を考える。 ・自分の長所や短所、個性などを記入する。 ・何も書くことができない。 <input type="checkbox"/> 自分自身がどのような人かを理解するためには、どうすれば良いでしょうか。 ・自分のことを振り返る。 ・友達から教えてもらう。	◇道徳意識調査の結果から、否定的意見を書く生徒や書くことができない生徒がいることが考えられるが、それでも良い。 ◇挙手で「長所・良さが多い」「短所・嫌なところが多い」「書けなかった」それぞれの生徒の状況を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 視点① 生徒が自分事として捉えることができる発問の工夫 </div>
展開前段	2. 本時の目標を確認する。 『自分が知らない自分の良さを活かす』 <input type="checkbox"/> 生徒作文『長所・短所』を聞く。 <input type="checkbox"/> 作文を聞いて感じたことをワークシート②に書く。 <input type="checkbox"/> ◎なぜ、自分では「自分の良さ」に気づくことができないのだろうか。 ・自分には良いところがないから ・自信がないだけ ・自分のことを客観的に見られていないから 3. 他の人が知っている「自分の良さ」について考える。 <input type="checkbox"/> ○「自分の良さ」を他の人に言われて改めて気付いたことはありませんか。 ・責任感があるということを理由に、学級のリーダーに推薦されたときに、そうなのかなと思った。 ・友だちに優しいと言われ、そうなのかなと思った。	◇自分のことは自分がよく分かっているように思っていたが、実際は分かっていることが多いことに気付かせる。 ◇「他の人が自分の良さに気づいていること」「長所を活かすことの大切さ」に気付かせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 視点① 生徒が自分事として捉えることができる発問の工夫 視点② 多面的・多角的に考えることができる発問の工夫 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 視点① 生徒が自分事として捉えることができる発問の工夫 </div>
展開中段	4. グループで、自分とメンバーの良いところを考える。 <input type="checkbox"/> 自分とメンバーの良いところをそれぞれのプリントに記入し、グループのメンバーに伝える。 <input type="checkbox"/> ○「自分の良さ」と活かし方について考えましょう。 <input type="checkbox"/> 自分を選ばず、メンバーが選んだ項目から5つ選び、ワークシート③に記入する。 <input type="checkbox"/> 1人1つの項目を選び、その活かし方をグループで考える。(ワークシート③に記入する)	◇誰でもその人固有の良さがあるという視点で自分や友達の良いところを考えるよう促す。 ◇まだ理由は伝えなくて良いことを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 視点③ 多面的・多角的に考えを拡充させる話し合いの形態・方法の工夫 </div>
展開後段	5. 自分の良しの活かし方を考える。 <input type="checkbox"/> ○今日の授業で新しく知ることができた「自分の良さ」を活かし、どのような心持ちで生活していくと良いでしょうか。 <input type="checkbox"/> ワークシート③の残った部分を記入し、交流する。	◇話し合いを参考にして、自分で選んだ他の項目について考えるように促す。 ◆自分自身を見つめ、より良い生き方を探ろうとしている。(発表・ワークシート) ◇個人で考えた後、グループ交流する。
終末	6. 本時の授業を振り返る。 <input type="checkbox"/> ワークシート④に再度「私は_____人です」を書く。 <input type="checkbox"/> ワークシート⑤に感想を書く。(全体交流)	◇個性を把握し、向上することで、自分自身をより良くしていこうとする意欲を喚起する。

(3) 評価

・自分の良さに気付き、その良さを伸ばしていこうとする意欲をもつことができている。

『長所・短所』

皆さんは自分の長所と短所を考えたことがありますか。たぶん多くの方は自分の長所より、短所の方がたくさん出てくるとと思います。周りの人は自分のことをどう思っているのでしょうか。

これは部活で練習していたときの話です。できなかったことを練習して、だいぶ上達してきたとき、先輩が「できるようになってきてるじゃん。すごいね。」と言ってくれました。その後「努力家だね。やればできるじゃん。」と言いました。言われたときは褒められたことがとても嬉しくて、恥ずかしくて「そうですか？」と返しました。正直自分では「できないことをできるようにする」ことしか考えていなかったけれど、それが努力なんだと思いました。その日、家で母に先輩に言われたことを話しました。そして、「私って努力してるの？」と聞いてみると母から「うん。いつも頑張ってるじゃん。努力してるよ。」と言われました。この時、自分ではなかったと思っていた長所が見えたと思いました。そして自分では気付いていなくても周りの人が「この人にはこんな長所がある」と気付いてくれていることがわかりました。(中略)

先輩や母に言われなかったらわからなかった自分の長所ですが、自分の長所と短所を把握すると、長所を伸ばし、短所に気を付けることができます。自分で思っている長所・短所と周りの人が思っている長所・短所を比べてみると、自分が良くないと思っている部分は周りから見たら良かったり、自分で全然気付いていない部分に気付いたりできると思います。皆さんも自分の長所と短所を把握して、自分をより良い方向に伸ばしてみてください。

道徳ワークシート 『 自分が知らない自分の良さを活かす 』

年 組 番 名前

①私は_____人です」にあてはまるように言葉を考えて書きましょう。

私は_____人です

私は_____人です

私は_____人です

私は_____人です

②作文『長所・短所』を聞いて感じたこと、思ったことを書きましょう。

③「自分で気付いていなかった自分の良いところ」と「その活かし方」を考えましょう。

私の良いところ	どのように活かしていくか

④ 今日の授業を振り返って、もう一度「私は_____人です」を書きましょう。

私は_____人です

⑤ 今日の授業を振り返って感じたことを書きましょう。

(資料4) 特設授業本事案【改案】

本時の指導

(1) 本時のねらい

自己の振り返りと他者からの意見をもとに自己を見つめることによって、自分の長所に気付き、活かしたり、伸ばしたりしていこうとする意欲を育てる。

(2) 本時の展開

	学習活動と内容 ・生徒の反応 ○発問◎中心発問	◇指導上の留意点 ◆評価
導 入	1. 隣の人同士で褒め合う。(ペア) 2. 「長所とは」についてワークシート①に書く。(個人) ・褒める時に使った言葉 ・他の人より良いところ	◇外見的内容ではなく、内面的な内容を交互に褒め合うよう指示する。 ◇参考として、辞書での意味「性質や性能などで、すぐれているところ」を提示する。
展 開	3. 本時の目標を確認する。 『自分の長所を見つめる』	視点① 生徒が自分事として捉えることができる発問の工夫
	4. 教材『長所・短所』の範読を聞く。(個人) ◎どうして「私」は自分の長所に気付くことができなかったのでしょうか ・当たり前だと思っていたから ・自覚がないから	視点② 多面的・多角的に考えることができる発問の工夫 ◇自分自身に置き換えて考えさせる。
	○自分の長所に気付くにはどんな方法がありますか ・自分で振り返りをする ・他の人から教えてもらう	
	5. 自分の思っている・感じている長所と他の人が気付いている長所を比較する。(グループ)	◇3人一組になり、順番に長所を記入した付箋を渡していく。もらった付箋を自覚が「ある」「ない」で分類し、ワークシートに整理させる。
	6. 長所や個性について考える。(グループ) ○長所は多ければ良いのですか、少ないと悪いのですか ・数は関係ない ・少なくとも自信をもてればよい	視点③ 多面的・多角的に考えを拡充させる話し合いの形態・方法の工夫
	○他の人から言われない長所は長所ではないのですか ・自分だけが知っている長所もある ・気づいてもらえなくても長所	
	◎長所とは何ですか 「長所とは」についてワークシートに再度書く。 ・自分にしかない良さ (個人→全体) ・“他の人と比べて良くない≠長所”ではない ・他の人より少なくとも、長所は長所	視点② 多面的・多角的に考えることができる発問の工夫 ◆自分自身を見つめ、より良い生き方を探ろうとしている。(発表・ワークシート)
7. 自分自身を振り返る ○自分はどんな人ですか	視点① 生徒が自分事として捉えることができる発問の工夫	
終 末	8. 本時を振り返り、感想を書く。(個人→全体) ・自分の長所に自信をもちたい。 ・他の人から気付いてもらえるように、自分の長所を伸ばしていきたい。	◇個性を把握し、向上することで、自分自身をより良くしていこうとする意欲を喚起する。

(3) 評価

- ・教材や他者の考えに触れ、多面的・多角的見方へと発展しているか。
- ・本時のねらいである道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。

(4) 変更・改善点

- ・「長所とは何か」を考えることで自分自身の長所を見つめ、長所とは何かを考えるように変更
「長所は他者と比べて優れているところ」 ⇒ 「長所は自分の中で優れているところ」
- ・活動・内容の精査
⇒ 自分と友達の長所を振り返る活動や作業を簡略化、良さの活かし方を考える活動の省略

Ⅲ アドバイザーから

「学力向上プロジェクト」の意義と展望 ～確かな学びを安心できる暮らしへとつなぐ～

北海道教育大学函館校 准教授 山口 好 和

今年度の「学力向上プロジェクト推進委員会」も、先生方の献身的な取組のおかげで、とても有益な議論が実現していました。昨年度までの蓄積を活かした熱い討議に参加できたこと、また公開研究授業から多くの手がかりを得られたことに、心から敬意と感謝を申し上げます。

とりわけ今回は、学習指導要領の実施を目前に控え、教材のあり方や子どもたちの姿にセンシティブな視線を投じておられると拝見していました。「何ができるようになるか」を目指す授業の実現には、どんな手だてが必要なのか、そのために児童生徒の実態をどう把握すればよいのか…、学校をとりまく状況を、広範囲かつ多面的・多次元的にとらえる眼が求められています。ここでは、本委員会での取り組みの意義を振り返りながら、今後わたしたちが進むべき方向性のヒントを探してみようと思います。

今年度の成果は数多くありますが、大きく次の3つを挙げておきます。

一つには、算数・数学の授業づくりのプロセスで、9年間を見通した児童生徒との関わり方について、具体的な提案と校種間の交流活動がなされていたことです。小・中学校で作成された「学力向上」の系統図は、児童生徒にとって「学びの地図」です。しかも机上の空論ではなく、生活記録（スコラ手帳）や授業時のコミュニケーションなど、普段の暮らしの把握から積み上げられたものです。こうして「見える化」された授業づくりの材料は、児童生徒を育てる上で二重三重の価値をもちます。校種・学年・教科をこえて、教材観・授業観を共有する媒介となること、保護者と「いま、〇〇に向けて～～を頑張ってますよ」というキャッチボールの手段になること、個々の学習内容が、児童生徒と周りの支援者（学校、保護者、地域）にとって、どこで暮らしと関わるかを確かめる好材料であることなど、幾つでも「いいね！」が挙げられます。小学校の授業では、「コース分け」という手だてをとることが、私たち自身のもつ指導法を振り返る絶好の機会となっていました。これは他県の例ですが、学校図書館の利用実践記録を、とにかく1枚のホワイトボードにぺたぺた貼り付けて、校内の理解促進に努める報告もあります。様式にとらわれず貼り重ねることで、教科・学年間の共通理解がぐんと進んだとのこと。成果の共有手段は、クラス・学年・校区などの実態に応じて、さまざまな手段・形をとってよいと思います。

二つめに、道德の教材研究では、教材文が示すケースにどう迫るのか、多様な視点からの議論がなされていました。しかも、【自分が見る「自分」・他人から見える「自分」】という、思春期の子どもたちにとって最もデリケートな問題について、ふだんの生活感覚をアンケートで丁寧に拾い、目で見えてわかる情報を使いながらの意見交換がなされていました。

たとえ「授業のめあて」を明瞭に示しても、大切な主題を教室の中に閉じ込めてしまっては価値が半減します。もしも「授業」がどこかよそよそしくて、自分の日常の感覚とかけ離れたものになってしまえば、そこで得た学びを再び日常（自分事）へと結びつけることは、とても困難になるでしょう。規範意識と実践の接合を問題にする道德なら、なおさらのことです。逆に、生活実感をベースにおき、授業で一つの問題提起と課題解決のヒントを得て、それをまた生活に戻す、という学びの循環イメージをもてるならば、その価値を子どもたち自身も実感できます。そうした身の丈の倫理観の醸成に、とても有益な機会が提供されたと感じました。私たち自身のこの学び合いと気づきが、市内全域に広がってほしいと願っています。

成果の三つめとして、「学力」の推移をここ数年のスパンでとらえることで、ひとつの傾向性がつかめてきました。大きくは全国的な傾向とも符合しますが、この間の丁寧な指導の成果から、個別の理解度は進んできています。しかし、複数の要素を関係付けて書きあらわす力や、幾つかを見比べながら適否を判断し意見を表明する力などに、まだ課題があるといわれています。「思考・判断・表現」の力を付けるために、どこをターゲットにすればよいのか、具体的に示していただけたと感謝しています。この実態把握をふまえての授業づくり・教材の工夫が、待たれるところです。

最後に、「社会に開かれた教育課程」の理念を、学びの環境へと結ぶための視点についてです。

NHKでは、少し前から「地域づくりアーカイブス」(<http://www.nhk.or.jp/chiiki/>)というウェブサイトの情報提供を行っています。過去の番組から良質のローカル事例が視聴できるだけでなく、現在実践されている意欲的な取組も、全国各地から届いています(各地の食材をいかした給食や世代間交流など、見応えある番組が多数あります)。この中の「地域づくり情報局」というスペースで、京都大「こころの未来研究センター」の広井さんが、「“定常型社会”の時代へ」として、今後わたしたちが目指すべき地域のあり方を示しています(<http://www.nhk.or.jp/chiiki-blog/900/245345.html>)。右肩上がりではない社会で安心を得るための方途はなにか、新たな〈豊かさ〉の目印を何で測るのか、古い慣習とは異なる持続可能な〈支え合い〉や〈つながり〉を生む手だては何なのか…。ここで紹介された“ケアの6次産業化”や「〇〇エネルギー」という地域循環経済、地区独自の幸福度指標などの事例は、学校が地域とともに歩む際に、どんな理念を共有し、どんなアクションを取るべきか教えてくれています。

「生活科」の設置や「総合的な学習の時間」の導入以降、学校と地域との関わりが、一貫して重要視されてきました。その実績をどう継承・発展すればよいのか。この10年、全国では学びの環境を、地域独自の基準や手法で主体的に作り上げる自治体が増えています。

地域との対話を重ねながら、教育課程を組んでは少しほぐして、また編み直し…を続けること、旧来の校種・担当部局をこえ、安心できる子育て・まちぐらしのために地域資源を見つめ直すこと、これらはとりもなおさず、私たち自身がくらしの

「質」を問い続けることです。学校の主たる役割は知的財産・文化の継承ですので、すべての学びが生活に直結したり、領域間の接合点をもったりするわけではありません。しかし、それらの教材・活動の中に、後々の場面で知的関心が発火するような火種を埋め込んでおくのも、われわれ教育に携わる者の大事な仕事ではないでしょうか。

算数・数学で学んだ考え方の類型が、友だちとの会話の中で「あれって〇〇に似てるよね」と何気なく出る様子、あるいは道徳で触れた話題が登下校時のふとした場所で気負いなく行動につながっていく風景、校種や教科の敷居をこえて素朴に学びの実態を語りあうコミュニティ…。本委員会での実績が、そんな姿となって市内のあちこちで花開くことを期待しています。地域のさらなる教育力向上にむけて、引き続き先生方との結束力を強めてまいりたいと思います。

平成30年度 函館市学習状況調査実施報告書

原稿執筆・編集者一覧

敬称略

函館市学力向上プロジェクト推進委員

〈推進委員長〉

函館市立恵山中学校 校長 中埜渡 信 裕

〈副委員長〉

函館市立北日吉小学校 教 頭 宮 森 仁 之

〈アドバイザー〉

北海道教育大学函館校 准教授 山 口 好 和

〈推進委員〉

函館市立北日吉小学校 主幹教諭 村 田 義 広

函館市立北中学校 教 諭 小 林 元 貴

函館市立青柳中学校 教 諭 加 藤 静 代

函館市立神山小学校 教 諭 山 崎 修 (北海道教育センター研究員)

函館市立戸倉中学校 教 諭 葛 西 猛 (北海道教育センター研究員)

函館市立深堀小学校 教 諭 道 幸 篤 史 (北海道教育センター研究員)

函館市立北美原小学校 教 諭 中 村 円 (北海道教育センター研究員)

函館市立上湯川小学校 教 諭 横 山 嘉 弘 (北海道教育センター研究員)

函館市立弥生小学校 教 諭 馬 場 一 徳 (北海道教育センター研究員)

函館市立八幡小学校 教 諭 高 波 綾 佳 (北海道教育センター研究員)

函館市立桔梗小学校 教 諭 永 井 朋 子 (北海道教育センター研究員)

函館市立南本通小学校 教 諭 三 浦 明 子 (北海道教育センター研究員)

函館市立戸井西小学校 教 諭 中 里 敦 (北海道教育センター研究員)

函館市立亀田中学校 教 諭 川 端 裕 介 (北海道教育センター研究員)

函館市立巴中学校 教 諭 高 野 克 (北海道教育センター研究員)

平成30年度 函館市学習状況調査実施報告書
社会に開かれた教育課程の実現に向けて
～子どもの学びの「質」の向上を目指して～

発行者 函館市教育委員会
函館市東雲町4番13号 0138-21-3557
発行 平成31年3月
